

早引人物故事卷之下

川關惟充著



失野下總守保元

ハ勢州乃

人延文五年仁木茂長子屬之

江州葛木山にて男頼一

頼一の父は頼朝の弟頼朝

頼朝の弟頼朝の弟頼朝

助元文五年没す七十

ハ頼朝の弟頼朝の弟頼朝

乃

失部刑部元

家人から一人ふとら武蔵守の

妻者と極むまの角力乃

上中平 山田次郎重忠 兼久の

明治十三年購

乱乃村系方小屬一官軍實一の勇之
 軍破くほ只騎院の河所小至るふ門と
 入ぞ山田大木怒りのまろてあり榎川ふ
 て自害の鎌袋山名伊豆守時氏ハ初面
 義重乃次男始より其氏小仕て武切
 わり馬應手中塩治高貞を討後其
 と執ひ庇と衆所康安元年赤松家と
 戦ひ能く攻れ成と従ふと後其
 證一降系してみを困乃守護小補せり
 是應安四年二月病死一門廣く氏清ふ
 代小至て領地十圍と押所と本編
 山名右馬頭時正南朝乃元徳四年紀
 列士丸の株一討手小向其村城中より
 夜討と勢小長途小破て前住心とて

出合ど時正忠合勇と據りて戦死同

▲矢川下野守ハ勢列乃人永禄年中

は敵乃は所乃下敵小あて赤河の株

責勇乃乃英士▲山口伊豆守重信ハ

重政が子小く河筋若に表れて比類

かきよる名▲山鹿甚五左門素行ハ東

都乃人小條家小仕は致仕一兵学以

公業とて其名る一▲榊生十左門後

但る守と号紐初一流の名家天正年

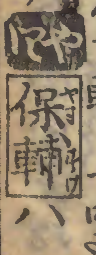
中比れふと佛ありとて度長乃初

小多るまき貴録とあり▲山屋半三郎

ハ隅田川乃水と心始て酒と造る酒ハ水

小依て其理ありけ酒造りて輕と雙

災あり江府の名産なり



右系亮と号保昌が才力イサキの勇士ムシに
 ども放逸貪欲ハヤカにしてつゝ不強盜ツヨクの強
 手と名なす追討使と切まく川下佛
 と戒名のゆゑ寛和元年秋光のあま
 禁獄イムせしと牢を破て逃去ニケは顯光乃
 鑑不入賊室と盗乱妨ハシる所を光を
 小押寄せお戦ふ安やすふて保神討死トを
 前まへ章あき康頼やすなり八平判官入道法名性照しやうしやう
 号治承元年謀叛いひふして鬼界おにの流
 罪つみを後小教あき光東山あづま雙林寺ふたばやし小松こまつの
 船公世の後りともうし尾野間おしの住
 屋い物もの山顯三郎國政やまけん八平政やまけんが子後をあき保
 乃以父おわしいの勇名ありと東あき秦衡しんかうハ
 伊達次郎と号秀衡いが次男文治三年

父乃遺跡いと相續あひ然しかに遺命い小肖こ以い後
 體ていとけてまい員い級きと後念あきの道みちのい返かへり
 てとい光あきとい光あきと文治五年朝議あきを
 發あき一い與あき列あきに至る日平乃大あき名あき粉あき骨あきと
 せしあき不あき忽あき敗軍あきしてありあきお家人あきの田
 次郎あきがあき不あき討あきる三あき十あき八あき同あき保忠あき八あき古あき郡あき
 新あき在あき第あきの尉あきと号あき安盛あきが子建保元年
 甲あき列あき不あき死あき同あき保清あき八あき所あき波あき守あき比あき大あき納あき
 之あき於あき盛あきの孫あき武あき切あきありあき平あき物あき泰時あきハ
 小條あき武あき義あき忠あき吉あき乃あき賢あき人あき兼あき之あき一あき礼あき乃
 村官軍あき不あき打あき勝あき一あき家あき奉あき意あきと遠あきくあきるあき也
 いあきども天あき性あき急あき悲あき小あきくあき産あき生あき死あき省あき累あき
 してあき保あき力あきとあき秀あき民あき不あき施あきをあきよあきりあきてあき天下あき自あき
 然あき不あき治あきる仁治三年六月老病あきおあきりあきて卒あき

平家物語

百十五

去六十北條執権九代乃内泰時時れ
 と賢政と攝と東▲泰村ハ三浦若狭
 前司義村が子累世乃大老ハ毎々
 秋田義景と不快表ハ村頼不親と
 つとも心ハ執権と棄つんとて獨
 歩乃威おろり將軍乃嚴命と用じ
 景盛はまをとりて密治元年六月
 三浦が宿所ハ押寄せ攻まる泰村ハ不
 作天一坊殺すといどもあま又奪られ
 を終小付履法華堂にて泰村とてめ
 一族二百七十六人切腹して累代の家滅
 亡と東▲泰盛ハ隆興守と号村田義
 景が子馬達人貞時執権の初武威
 小なるも百姓とくくめ諸大老小討して

吾れあるのこみず弘安八年先祖乃
 右系性とくくめ流性とも密小叛逆
 の企とあも貞時と實否とれり殿
 中ハ百寄父子共小誅戮と罪五代
 ▲康秀ハ建武三年山門合戦の討六
 条河原にて誅せらる大尉乃士國平
 ▲安家ハ入善小太郎と号城中乃人
 家乃侍十八才小て比類なき御して終
 小討死大尉乃勇士源平
 ▲藥師寺次郎元正門公義ハ入道して
 え可と号歌人あり後軍切と顯き
 ちの師志小代と絶去と誅しとあり
 ▲泰綱▲泰範ハ今川上総介と号範氏
 が子武乃達者後永年中義政小佐

〔後平〕**康親**、多賀小次郎と号嘉吉
元年赤松滿祐と播磨介と親少時
東方小屬して播磨乃武切なり 同

〔山中鹿介幸盛〕ハ尼子普代の家人

ハ戈小して強カ大人小捕成成長小隨ハ

身長ハ尺小勝リ矢束十八米と力力量

百人小雙日本兵乃勇士累年尼子

毛利と戦ヒ忠戦と勵とと六十あ夜

遂小一夜も覚とえとて毛利亦ハ

降糸防刃ハ部乃長路次小て誅得

せらる**中圓** 山本即介晴幸ハ三列牛久

保の人軍道の切者才比四海大小礼合

戦又小止付小一晴幸武運と量て切

若とまると謀國と口平後信玄小佐て

救度軍切と願と永禄四年九月川中

流小て討死と武三 **山縣三郎兵衛**ハ

版富之部乃軍道乃達者所武切

言小強列ハ屍乃降と天正三年長條

小て討死 同 **山中勘解由**ハ北條氏康

乃家ハ天正八年武切ハ五寺小て死

〔東平〕**山本善太夫**ハ大坂の人庭造りの

名美云と坊より山水乃法武儀ととく

以景と方又小編む若人なり

〔山崎宗鑑〕ハ初志那跡之部範重ヤ

号延徳乃以義尚覺とて後出が山

崎小閑居して風月と弄ガ

〔山崎闇齋〕ハ加登門と号播磨の系

降小住して妙心寺小いつてお家絶絶

と云ふはるゝとて儒小海一四方小海
晩年又神道と云ふ六十もあつて卒

▲山崎與次兵衛ハ後をのわづはぐえハ
あひ別除しとありき毒しくハ洋田

野幸ふとあり ▲山本彌三郎ハ東都ハ
住してハ妻人形ときいおすけんと

とて ▲山本喜市ハ味せんの妙子忠の
音とて種く曲師と作る宝永のは名

人 ▲安田壯司ハ紀列乃人え亨二年
逆公と云ふ村楠正成小令とて退治せ

しめ安田が願知と云成ふと云
陽成天皇ハ清和の太子ハ歳終ハ

あつて即位成長ふはてハ荒く平丸
内裏小馬と同一め時と衆猿と云

を闘しめ惣て和乃振舞ひと云
奉経とと諫と美しと云て押給

なる十七代實 ▲日本武尊ハ景
行天白雲第二乃白雲子乃長一丈三寸

武勇道く智謀又涼ハ東夷蜂記
して草小火とかけ焼殺さんと謀る

る宝剣をぬた蘿花ハ都て歌妻
焼殺するとて是と云お藤乃海や

し又か上落乃路ハ燐吹山乃道ハ
て大蛇のいのち毒氣ふくらむ行く

鹿見ぬ乃人まゝと云ハ妹あ人共ハ
至孝と云ふと云て大守是小米飯を

賜 ▲史野荒次郎時澄ハ
は早夜討

清城攻乃村魁して名を顕せ
外河くわて戦ひたり **前木** **松垂**ハ
名京正澄が別塗一妓女あるを
澄友を奪ふよりて見せす中ふ
和となり終ふ事とて **同**

松田弥三郎常基ハ寛文四年十二
月村頼入籍(根籍者)を令り上下澄
動ふ及び一不忽不楯捕かりぬ大割入
勇士付於感して松田小賞とあり **東**

政子ハ北條時政が娘頼朝の室に
の薨して村家實朝乃代ふり時政
と周く政と執正治元年尼と成二位の
禪尼と称せ世人尼と尼將軍と子前
祿元年七月卒去二十九 **鎌三代** **増**ハ

源運が子号馬乃速人 **正**ハ松浦小源
次と号久が子女武の速人武功あり

間官豊前守好高ハ小條氏政家之

天正十八年相模山中ハ母小勇と振
ひ討死せ **真鳥**ハ武烈帝代記小曰
億計天白皇十一奉大臣平郡のまを
皇政と為小一五位と採めんとは依
て大伴金連小勅して殊りむと
り後世大内裏とらる津島屋小造
りて討死と及逢人とと混雜一太友
のまをといふハ誤なり案とて

正木大膳ハ里見宗弘乃一族武四あり

る上乃道者行も細乃る宗家増て
名とるとなくあり **武將畧** **松田左京**ハ

は昇政軍大戦

一里九

北條乃家ノ相根山中の隙にて大木御
討死す

松井佐渡

御川忠真

家臣に及ぶ武田あり好むと長男を以
真子庄司 紀州乃人其娘を嫁とす

山伏と志せし由又紀州赤子村小沢昔

より屍体乃廿人ありと其護校ハ又月

勝栗小髪赤子より容貌異なりと云

危さども収まる事と云ふ道成寺の謠

よりおらるものぞん新著同集おとす

真中次共衛 八強勇やて男作と好

立りたり一近室乃比江戸かてそ名は

雅忠 八丹波國天白人日本まぬの名

醫好醫ハ時とく水観二年ハ醫

心万世巻と作す昇殿とゆるん丹波若

称し号と **將門** 八鎮守府將軍我

政う子相馬小次郎と号之慶二年園東

少て謀叛と起し常陸國一責入其伯父

國香と討一團と押依と又より坂本藏

を搦ひ白平親と号よりて末弟あり

官軍下りて及し合戦お及びし長盛

秀々が不利と失ひを盛が敵つて高

了秀々小首と云く此一家志滅亡と

前平 **將平** 八葦原江野分と号之

勇乃人好むと三男あり **同** **正頼** 八御

厨三評と号將門が勇強勇の之戦の

多し武判の戦少て討死 **同** **正度** 八

常陸女と号長元年中常謀謀及

少付及し戦のり **武評** **正任** 八黒川

は早川故事本
三十一

屍甲研と号河倍頼村が四男武勇の
 人武評▲正盛八兵庫頭武勇の巻の
 忠盛の父康和年中武親の討
 ととて武雲一りの衆親と討れる
 人ん乃る名同▲正清八後田之御尉
 号源家の士忠義の信長初とあかく
 内海にて死保物▲正弘八下総佐三
 と号貞弘が子もねの北西保えの一
 乱小奥川一流る同▲国房八之内中
 納言時季ふしと智あり二條院乃
 源光詩哥や道と兼徳二年六宰相
 作ふらと天永二年七月卒七十一(一)
 ▲正光八流口吳丈武切あり召兼年中
 徳倉ふて討死し源平▲希義八佐伯の

冠者と号義朝の男嘉永三年と依
 けて年表と我い勇と極の討死を同
 ▲正成河内守と号累世河内の国小位
 宅のちより小楠ありて氏ととえ
 二年徳方の一校と善く謀得す御格
 小ちてこの時存賞禄とえ弘の秋好
 醍醐帝勅ふとて我切之小顯る建氏
 八乱すゆふして武運と傾らと一
 聖運也と容計と物許とあり力及
 びて正行と河内守とほとと
 陣と救及破り湊川にて忠死四十一
 建武三年五月廿一日卒▲正季ハ
 和田七郎と号大判乃勇士建武三年
 月正成と共に討死同▲正貞ハ橋本

百三十一

と号正成が一族清川にて勇戦して討
紀之 **正行** 八捕帯力正成が嫡子父
子共小吉今良將父討死のほを遺て
守古々一停アお小志夫乃志と麻しほ
瑞帝と西ア奉りて台野小皇孫とわ人
菊方とち獲りて赤松細川等と戦ひ勝
利と得たりまほ正行系おふまの民
主等と政治中政乃外強動小ふまの
ぜん聖運同くおかりしと謀物行なく
定小おり詮方々浚救乃と幸國へ
悔るまてまの氏を野見せとて討
む正行者神事り必死乃約とま一貞
和あ幸一月は條繩とて討死とせ
也之勇戦お代末團 **正朝** 八和田

新在清大別の勇士貞和あ幸四條繩
女乃軍破唯一人吉野へある初る阿保
忠實小出合戦ひしが遠く射僵直と
忠實小討る **正儀** 八右の頭見正行
討死のほを神師泰と對疎年月と揮
る又系初を攻て大お利ありけと下も武
威日く小盛小して官軍漸く小衰微
康暦二年是と愁て正儀終小病死 **同**
正勝 八捕判官と号祖父正成より三代
忠烈乃士嘉慶二年八月民満と討九
らんとして謀めは山名氏清が為小不
意と討はた大敗支終身微運おて十
は川乃過おて愁死と **太平綱** **正元** 八捕
次郎と号見正勝官軍乃將とあつて戦

勞と云ふも運中て死を以て
 八京都ふるまはば備を討んとて
 討とて防戦死同 **正種** 八家
 備人武切りの徳二年十二月山名氏清
 小屬一云大宮の戦ひ赤松が堅陣と
 彼を討死同 **將則** 八大河内と号赤松
 則祐が三男武勇の人徳二年山名氏
 清が謀叛同云一京助小おめて討死
同 **政則** 八赤松伊豆守と号満祐謀叛
 の後赤松が一家流浪と云は侍所南
 朝あり政則謀臣とて奪取とて
 賞として加州とあひ勅氣と許る
政重 八三條公綱が子重名譽若き如三
 幸江州小流るる因に角政に援助

竹那小位は六角承久佐新之部と号是
 清升のえ祖の徳に年別髪して道端
 とり同幸卒去五十一 **後平** **政村** 八小糸
 四郎は左大臣と号村う四男父卒その
 初好毒逆意継子春時と云一母女子
 政村と世ふえとて企頭と一味の輩
 流得せし春時政村と云は父思ひ死知
 と宛り政村は依り是親兄の乳を
 尊くて文永十年卒六十九 **鎌九代**
政知 八義教乃四男永享年中番最
 院へ入る禪僧とかり長祿元年遷俗
 して三位を名流耐小位と延徳三年四月
 同東小おめて卒去五十一 **平** **政堅** 八
 細川右馬助永正八年八月船中山名氏清の

武勇の振ひ討死

時勇の振ひ討死 **後幸** **政元** 六佃川原

今も号勝えがみを行跡平人とかかり

禦母不犯ふしと魔法と行くと云澄

の管領とありて武威四海不患と云

名義澄の奈ふ門永正四年二月八日

香西又の逆心と湯殿小て害せざる

後大ふ宗子とありて神ふぬる回

昌勝 八系隼人と号信玄の家人母十

六月と終て誕生せども母ふして中々

産るすめりて物陣より戦ひのり

天正十年より遠ぶて此類ある御して

討死 **武三代** **昌幸** 八直田信細が全才

武孫喜之房と号せし人ゆて好家

と継て守房と号武勇知謀あり

者か

松山新助 八幸親吉小佐て番士を

つとむ永禄年中夜に戦ひありたり

諸國と武者侍のりて三好よりお属

又く武名とありて **後幸** **政行** 八并と

九右衛門と号是田原の居別勢ありて

寄居石恒系右親の村大なる家人吉

廣加吉房と討拵群のり名

將則 村上源氏より新助をまとい

後余右史物新小住武切らりて新助

系新より新氏の紐あり **政則** 八福吉

市松塚左衛門をまとい志津歳十右衛

のそ人平場合戦乃名人及く空陣とや

とて大款とくたりの妙至つて強勇の人

其の耳に事あり

正宗公藤三郎

行光の子を即入通と号相州後念の
人伝見院正徳の比名作日本三作服
治の地一松山挽久
公芝居輕言小鏡
世に松本を流る母は情中始と松山
と云願誠小出會しと云流るはと地七
ぞ松本文右三門
八丈改荒本流の比
言るり古今れと云者正徳の比稀者
よ万壽八万字を抱容貌はく
てん潤達ある人皆叔美身と云名
そえ流の比令盛立り言氣比と云
一七と有り一廿と云松下助三郎公如
其の比ゆきと云麻ま親の改早川
八と云と十四方おて芥門の彈おて付と云

宮本信長と云者かと云一と云

九山權太九門
八と云乃流力角力入

名人大男の比三才七ト
待霄小侍從

八石清水別當光法と云後を那の愛

妃英法局が妹近清院乃皇后者子

小伝より人
眉輪王
八草香白皇子

が子市父ハ安楽天皇乃る小殺する

よつて天皇を殺して父乃仇と報け侍

質雄略天皇小殺しんとと云後い葛

城大にが家小逃隠る雄略是と云つて

返来り火と放つて坂合皇母肩押

五と燒殺と日本
牧の方
八討政と後

事改子と絶母威勢甚強と云二年

六月白山父子と謀殺し又実おと害

其の耳に事あり

百五十一

せんと謀るを密計顕仕伊豆乃國一
流る東 **松浦佐用姫**ハ大伴枝の

彦ガ毒宣化天皇の御宇新羅任那
と合戦を討獲も彦と討まとして彼

の比小舟小佐用姫又乃別と惜しふ
わりてを私とをむと慕ふ多慕の

氣凝るふかきと云はる日本
松風村雨の二ハ容色共小美あり

仁和年中在京の行平頃ハ浦五
遷の村侍して佐治ハ海士と甘く

いつともねはる意より出たりと云
真髪成村ハ陸奥の人カわくは強

角能の上ハ後一條院乃沙村相掎の
長今ハ上洛ハ幕府より文學寮

をふる村大カの学士小舟ハハ叶
ど築地と越遊人ととる小学士也

そ水とたふはとほし小水碓てさひ
そ成引ちぎるもあり希代乃強カ守

沼拾遺ハ出たり **松下禪尼**ハ相掎守
村也乃母賢也ハ一と毒と治の道と

知り又禪尼障子の被さるとして秋
田義景小政りとの事伝也ハ

名も一 **け** **二** **け** **三** **け** **氣比太宮司** **太郎**ハ
カ弟人ハ然も練乃達者金高落城

乃村春宮と助もる **信** **合** **崎** **ハ** **三** **海** **乃** **三** **海** **乃**
自害と希代の勇士 **三** **玄基** **ハ** **齊**

藤伊豫の房ハ波羅彼てあ人と云
討死と **本** **玄** **惠** **ハ** **天** **台** **乃** **傳** **あり**

ナ早川故事大成 三三三

一が一度宗論小負ては還俗隠遁
 して庭訓往來を傳り又太平記の傳
 後▲玄旨ハ細川幽母孫考と号れ
 哥を能して又武勇小くくる松蔭小
 かつくはま妙と号り▲玄以ハ前田往
 善院法中と号れ智人小勝き又相
 学小業一一人は十二年大仏殿の惣奉
 行くまりて名譽なごをまり
 多田法眼初名美丈丸満仲が子若年
 よつと歳山小登りて出家惠心乃々子
 と成つて台教と号り又武藝と好術
 と幸と一終小奥旨と極む前志
 ▲賢秀乃ハ和田新發初大別の勇き度
 一の戦四抜群有り負れ五年は條繩

一の戦ひ破き湯清平宮名郎小緒
 勝と切るま目らるる平宮病小かると終小
 怨念の爲小殺さる同▲慶由ハ蘆
 方入道と号れ北島乃一族天正年中子
 息刑部がふみと和井小入つてふと道
 律儀の人▲謙信ハ輝虎と号れ長尾お
 景が次男上杉家小佐天文十年父
 爲京河死のほま跡と相續村小十四才
 武勇著しく戦智謀深小よつて戦を圍
 と村は天文年中村上義清小殺れ
 信玄と戦つて救幸は折變して
 謙信と号上枚憲改管領職とゆつ
 るよつて氏康と名く合戦適上洛し
 て越乃をよと賜るも海軍門中傳りて自

十甲山文書本式

しんぎふ事考

身任玄と教の天正六年信長と教の
べき乃る平定國と發一旗中にて頓
死を四十九**東平**▲玄助ハ阿刀氏靈龜
二年初小うつて入屋又野武の信母久
病ふまゝ人小なふしと忌給ひし
け僧と信覺して杖笑せぬ病氣平
候よつて夫自紫乃如衣とあふ是
日幸は急夜の始り放あつて築紫へ流
罪天平十八年度嗣が怨具小害せる
續果▲兼好ハ吉田在之傳佐と号し
顯が子後宇多院出づてほむ水隱
道つまの作者兼好の元年卒信長
を以て法名とせん▲契仲ハ空心と号
下川氏高川尾湯乃人知少小と号

才出家して妙法寺小住と號年退隱
して河と定ぞ又國字小巻しく古徳と
發明と著述多し一え禄年中卒六十三
源性ハ進士左之門尉源整の子と号
將軍家ハ昭近侍字社書筆術の道
人よつて玄顯小人過ぐ慢ん目小慢也
しく傳若きまかりに治二年乃秋松西
一見して魚洲へ入るま一人乃信小巻ふ
て勝んを碎る源性まより少く勝んを
止むといふ**鎌五代**▲源照ハ盲人の
乃妙曲と傳り坊小松院の恩寵分
蒙り紫衣と賜せ是盲人紫衣のまが
玄賓僧都ハ河州人信學よして業
大心成る桓武帝詔と古とほ通して

早川氏事考

百三

一兵古事大成

新田義貞乃臣及之哉切武勇と顕

▲舟田長門守經政ハ義貞小屬と之

切乃士建武二年さる氏と合戦乃村大なる

働わり回▲福間備前守貞平ハ治

高貞乃家人太力まぬ乃勇士死歴二年

八月山名氏清ハ屠一平尾ハ勝と

合戦の村二る柄乃鉾とハ官軍と実

一太なるまををあら

▲深野平九衛門尉貞房ハ大心義貞乃

臣大別乃勇士永正八年ニ好細川宗教

責上るを村舟田山小合戦大敵と

破子細門改賢と討九る援祥のまを

▲船木十兵衛尉氏信ハ六角乃家人

弘治乃比戦切多

▲古田織部重能ハ

利久乃曾子一流名人▲芙蓉ハ角可菱

を指在房の抱寛洞小して伊達と好寛

永年中道中乃美収晴おと弱下終

くをこころもほ又け都乃風俗とありぬ

▲文長ハ紀文盛が子後多羽院乃小面

武勇のり武將畧▲藤綱ハ青砥左衛門

号兼之兵乱の村守治のま小向て比野

丸武名と顯とつて青砥乃莊と終ふ

古今乃賢者村治治國乃義と終と天

下奉てま家凡と幕▲東房義ハ上秋

勢方が子永正三年戦治おわて平尾首

景小謀とて殺害せらる勇士▲東大平

▲房頭ハ上秋憲親が子武田のり管領

足利成氏と親めて参あり▲房定ハ上秋

相持守智男乃將長尾為具と殺年
 合戦小及ぶ天文のは **藤房**、万里小路
 中納言は碓礮天白土小佐木達武のは賞
 符はうらぶるとまぢく謀とも文小許容じ
 ありまよつてせとえかざりて遁世と **天平**
房尚、八陶晴賢が家人山須左門と号
 天文八末晴賢累代乃若菜隆と討ん
 と在守村多々と棟たまぢくして一番小
 討死して君恩と報む仁義乃勇と **重平**
文棟、八秋月筑前守と号三益の味を
 天文のは大友と戦ひ武名とあつる **同**
吉市九郎兵衛、八流川一益が家人勢州
 の人天正十年北條と一益武彦行ふて合
 戦守村一益が子八九と生捕らる吉市 **近藤**

敵敵人と切つて八九と取返と忠義振
 群乃働かると **東季**、**藤賢**、八細川右衛
 政と号天文のはる名あり **藤長**、八一色
 式部少輔と号天文年中武切まゝ
福富平左門、八織田信長小屬して後
 くの戦切たひ年中都中能寺小てま君
 共小戦おと **福嶋丹波**、八山則の
 家人及くの軍切堅陣と破るとまゝ
代衣屋但右三門、八え録年中大坂南境に
 小て角力真行是より累年相續く
武烈天皇、八仁賢天白土乃太子天皇
 崩して平郡乃直名其子新帝とてん
 の心差有まよつてあくと殺して帝位お
 けくまほ悪逆増長して胎女乃腹か

ささぐ又乳と扱て比と穿しむ外者と極
 免酒色小洗る人皆大か忍る在位八年小
 して崩○ **深州女將** 父納言義平
 の長子義宣と号を深州より小野庄小
 町が宅(百夜通ひ)と流すか有りま
 竹乃下道負モトミツ 塚がどおのぬい道と云
 弘仁三年卒 **○** **巨勢金田** 入陽成
 天皇乃は宇入唐して画と云ざる村並
 又傳哥と好む宇多天皇乃仁和四年九
 月金田小舟とて河内南原東西の浮子
 小並と云しむ至て妙なり **○** **三代實**
小督 攝所モゲノリ 藤原の妙子其以
 禁中一乃美人故つて内裏と定て流ユキ
 隠るまじ小督乃乃弟と慕はせ給て止

ぞ仲國とて系心せむ **平家**

甲賀三郎兼家 大別乃勇と岩屋小

て大蛇と討しつに州大忌寺の縁記に見

たり **見島備後三郎高德** 天台備津宮

の神獄ツク 範長ノリ 子に備後守と号自

忠乃ささぐ後醍醐天皇小はて戦切ら

くんるるて天皇後醍醐(流るるを討き地

備不ヒナ 殿の赤と刻て二句乃文と云付也

美の志とあり守を後建武の亂小も四

あり **平** **小寺相模** 八獲良のほえ弘

乃比だ軍切とあり **平**

後藤弾正忠 八勢州の人延文六年仁本

美長小属一者小山タカ 勇と振ひく

討死と **後藤但馬守** 八播州の人依本

一平家傳本

百四十二

六角家の長は武道の達人永禄年中
父子故あつて後死と同▲國府次郎四郎
ハ勢州の人東國より上て九代相續累世
武勇の各ありしが天正十二年おきり滅
亡と後藤又兵衛ハ英雄の士幸徳田
家乃は文祿のは船辨攻の村まねたふ
秀え和え幸徳大坂おて死去▲虎徹ハ長
曾祿貞重入道武州の戸心園お守
寛文の以名人▲小万ハ指津園大坂の
城中お有りしが五人の室推入く捕と
居るひいと同道より授けてるひとく
あしなる小山崎おて益城お合所
絨入と切殺しき庵お居る者多し
世小拂ある也▲維叙ハ陸奥守と号

平貞盛が子法守府將軍お任とら
るの達人▲前木▲伊尹ハ一條栲政謚
て徳徳公と称と若年のは和守所乃
奉り後撰集乃撰者天禄二年薨と
四十九年▲維茂ハ平園香の孫敏盛
が子法守府將軍又條入將軍たつ
武勇天下お並ふ人か一は服諸任と付
ほ又戸隠山乃忠鬼と切て武名と顯
▲大系圖▲伊行ハ山田小三郎伊賀の人血氣
乃勇者保え乃戦ひか討死と保勘
▲惟重ハ隠岐の判官と号武道乃達人
保えのは戦切りの同▲維義ハ松井冠者と
号る義が子戦切りの名多し▲源平▲惟基
ハ大神父大蛇美男お化しあつて堀川中

一見一故事本

百四十二

納言の女と通じて男子を生じ惟基の
子供方三郎が祖源平

維將八肥前守
と号す平貞盛が次男武道乃達者大元

四年紀を前本 惟義八緒方三郎と号す
後の國主始平家と責むは弟經小味

して四と云へて止野國一流らるる
の達人武乃乃達者源平 惟隆八後

春杵二郎と号す平盛二年平家と責む
大少のり同 維盛八三位中将小松重

盛乃嫡子元傳元年西國より来る
山小切むきお家一那智沖してあり

傷より能我乃道去小隠執して病死
と云ふと云ふと後繩八要害と云ふ 平物

惟頼八河内近將監武勇の士元弘

の比る者多し 李綱 惟平 八肥前守

清門尉と号す和田合戦乃時勇と後付
紀を鎌三代 惟綱 八赤木六郎と号す

兼之乃乱討死す 東 惟貞 八北条隆
貞守と号す武道乃達者赤馬三年紀同

伊周 八園白道降る子父病氣小く
仔細と云ふ園白と云ふ道降る

己小園白と云ふ道降る園白と云ふ叔
姪乃る不平通るを洞伏せは三年法皇

を射るものあり伊流刑行る津原
して寛弘七年正月薨る二十九 前本

惟長 八此口刑部丞と号す武田の程の
賞として信文郡と云ふ 録衣

近藤平治兵衛盛政 八号馬の故實と極

三十一

是と平生の業とを會後あられ心と清り
 入道して後乃國府小治居也あ年中
 美満乃降範とる **卒** **維次** 小松徳
 殿助と号嘉吉年中武切あり紀州の人
 後登入水とあり当國に居て子孫代
 け所小居住 **後卒** **金剛** 九門尉俊行ハ
 カ之後宗が兄号るの達人と名多し

武將畧

惟兼

ハ八條院人と号大宮惟忠の
 子と名あり **同** **維氏** 八武田十郎と号政

氏が子武道乃達者と名多し **同**

小佛 小兵衛

ハ江戸に住して男作と名む
 延宝天和の法を名多し **獄門** 庄兵衛

ハ大坂の淡米仲流は時強勢ややくまぬの
 男作茨木を流川螺売と名むハがむお付

黒船を右歩のふ殺る

惟明 八橋ノ守

と号藤惟秀が子号の上と名多しと名あり

武將畧

小京本

ハ伊勢三郡美盛が郡守

水棟の達者え馬の比赤洞を因ふ涼早合

戦乃付後乃信人鞠乃六郎と討れる大

別の勇士 **義經勲**

惟章

ハ平治一乱のとき

物骨とついで相働と殿上と名 **平治勲**

五大院 右衛門宗繁ハ吉村乃家入の

亡ては嫡子邦村と領るに源金中と名

と名とつかりすと名多し **宗繁** 悪

逆無道小して邦村と殺して美貞ハ降

参美貞謀んとつて宗繁是と聞て源

兼とのとと路取つて俄に **天平** **小紫**

ハ江戸義清の人の領地と名と志つむ

皇極經世一
皇極經世一
皇極經世一

至全盛有みる者あり平并権ハ小深く
別深何れも嫁す権ハあまると聞て北
里ハありしが同馬冷法寺ハ守来りともハ
自害して探入権と現と比羽興塚是カ
▲國姓爺ハ都成切と号肥前平戸乃弘
光元年小堀七い清起る是小よてみゆを
起んとして被比(渡る)幻日幸貞亨元年
小當る
後鳥羽院ハ高倉帝弟の
皇子安徳帝西海(高あふ)つて御位
治元年卒家滅亡げ村頼物ハ諸國物遣
捕使と勅許船庭日ハ表々建久四年位
と獲り太上天皇と号兼久三年北条と七
えんとして合戦及び一と運運控り流
政國一流の子延應元年崩六十五(東)

後宇多院ハ龜山院ハ太子文永十一年

三月即位同年家古乃乱かゝる弘安
十年位と獲り藤原甘之と絶て去言
の密法と傳へて中元年崩と五十八

北代 七 弘法大師ハ桓武天皇の比守延

暦廿二年初て入唐大同元年小律朝ハ
言の法と傳へる社筆ふくく日本三書の
其一又神泉苑ふて函と折るふヤトあり

空海と改め弘法とふ弘仁七年宇野山ハ
改定の比とひと兼和元年三月高野ふて
寂と六十三(元釋)後白河院ハ高村廿四の

皇子久壽二年即位保元の幼法自業ハ
いそ一七日もとるふ系中大小隆勅として
親類骨肉と争ひ互法礼も若代末肉ハ

一平一故事大成 一四十一

園白として政と執といふもを依と押へ
 義撰の政自決断を又記録と重民間
 の訟と聞くと一年とせめて政正しくあつた
 頼通職と止め守位引替る然ども天
 皇多病おして在位ゆあく終四年おして
 近久み年崩を**〔代〕****〔て〕****〔出目〕**近江ハ
 面おの上京原の傍位と又出目常滿
 ハゆふ住を何とも名人**〔手〕**越の奉りく
 ハ曾我十郎大権通の 村正者内ヶ相方
 として揚をへる名代ハ極君**〔置〕**
〔照〕ハ瓜生弾正左門尉と号保が身武功
 あり松山より起りて官軍お屬し金ヶ橋
 乃後結とて教賀おて戦ハ**〔率〕****〔光〕**照ハ
 云氏長者う女容貌英多り父ハ長瀬川の

人むか多り一光照成長ふきうひひふ言ひ
 或男維子と射多ると紀和て言出ると考
 け事山崎維子留乃里談おせと

〔貞〕敏

ハ後系雅樂頭と号け人仁徳天

皇業和十四年の唐して始て音楽乃み
 音とおひひて律約乃後げ人として始祖
 とと**〔王代〕****〔釋〕**伯ハ源三郎は天和と号す
 勢州長野乃城主大文の以る名多し

〔中〕平

〔輝〕弘ハ大友太郎左門尉宗麟の舎

弟大内義隆乃甥義隆滅亡乃ほ毛利大
 友と数年合戦ふる永祿の末九州大乱
 乃村輝弘大内と名宗て毛利家とお戦
 ひ勇と振て討死を**〔同〕****〔輝〕**祐ハ曾我去
 庫頭と号義輝乃家人永祿乃は武功

のり 聖物 ▲照行 八階堂 彈正少弼と号

関東の人 天文の比喩 名多し 撰太平

▲貞徳 八松永永種が子 長頭九と号 詠

詠のえ祖 天正の比細川 吉吉が哥道乃

の法 小治とて百韻乃式と定むまゝ連

身乃名譽とほり 兼應二年

▲天竺徳共衛 八幡州 高砂乃く大坂上

塩町 小居して船政と業ととほ 樂騷

て宗んと号 若幸乃法 天竺へ渡りしゆ

ゆふ 天竺徳共勝とて 宝永四年に在り

▲天溪 八隠者なり 正徳年中 伏見町小住

て酒客のわ小袖の梅と製と今八里の

奥とる ▲貞柳 八油煙母と号 大坂御堂

あつて 頼登山 博とて 葉子と若幸と

相おとよりとよりて 雲よ小園て 油煙

母と号と若幸 享保十九年死

▲出羽守源齋信 八後河守 忠隆が男

初少より 齋と傾ひは 同志ひととと

そ 齋乃出まゆとせとて ころりま意と求

ると 律乃とて ▲兆殿司 又兆典子 古山

と号 文和 小生る 大道和尙の 曾子や

かろ 東福寺 小住と 佛給 小妙あるゆ

紀 小造ゆ 八應永 年中とて 名文小造

七 天武天皇 八天智乃 比 天智天皇 八

例 遺言乃 爲とて 天武とて 名とて 小友乃

皇子 乃 送ん 有る 事と 部り 多病なりと

と 辞して 髪と 剃る 吉野へ 送る 村 必男

依 等 文武の 比 跡と 著ひ 敷万 緒とて

傳教大師ハ三津氏迫江乃人十才
して出家延暦年中入唐一心三觀六
台乃真武と極て海外を傳漢小唱る
延暦寺乃同祖弘仁十二年六寂也

安房判官代隆重ハ若年より権
系景時と交り厚く正治二年後河
をて戦ひ旅と家ヲ松の本乃志けふ
とほ糟屋有るが家人小生捕りし誅せ
らる東

安部播磨守泰近ハ鳥羽院
乃法隆湯の博士玉深茶が悞吳と葵園
せしとわとに成るととつと

阿曾彈正忠ハ永禄年中波津の下知

小つて赤堀の謀と責て天子を柄と願
と後平栗津冠者ハ武勇の士雅
い小をひて竜宮に至り又大蛇と射る
とあるとつて撞と得て後寺とまつ
栗津廣江寺是なり其時今園城寺
おわりの事法本秀々の伝ふ一ハ張
りやんう事くハ古史伝ふ出たり

阿佐利與義遠ハ弓馬乃達人建仁元
年三月坂額と頼家一言上して中法妻
くと皆人を異るとわとむハ武勇と
暮ふなり東赤井藤大景俊義経

の后一谷我ひ小教経乃陣中お忍ひ
入謀あつるも勇と極ひ討死と義經勲
秋田城之介義景ハ景盛が嫡子武通

本長子也三十八日

乃達人松下禪尼乃兄達長乃年六

月卒去園▲秋田元正門尉宗盛六頭

盛ケ子武勇有弘安三年二月死同

▲栗屋孫次郎信賢八元就乃幕下小

一して流弓武流云入達者天文年中教於

軍切と顯中太平▲尼子伊豫守義久

八晴久子累世出雲國小住して之内毛

利と教年合戦永祿年中義久終ニ

折負利發して毛利家不降る元就

衆と敵一技 equal ▲甘利備前守ハ

信玄の弟人天文十二年戸石の城小勇

と推ひ討死武三代▲尼子兵部太輔忠高

永祿三年西國乃合戦小折負浪人

かり佐よ家不有り姓と改め分弁

秀高と号武勇乃人中太平

▲浅井新九郎長政ハ父政ケ子好佐有

る武道拔群かして江小不感と播美

正え年八月小谷山乃城不有て信長

の為小生害と ▲浅井宮内少輔

ハ父政ケ舎弟天文乃比大不武切あり

▲赤井悪右衛門ハ丹波の久大別乃勇也

天文年中死武將墨▲跡部大炊介ハ

甲州武田乃比天文十年三月死徳勝

の寃長武三代▲阿閔三河守ハ京極乃

▲阿西ハ三村入道と号天文三年三村元

親謀叛と企阿西一味さる小あて慈

和の城不統ア小平川大軍とくぐ

降参して流罪せむ申太平

浅井田宮九ハ織田信雄乃長天正十

二年三月長崎入城して生害を忠義
貞實の人 赤尾伊豆守ハ系極

高次の長慶長又年折く名あり

浅野右近ハ浅野家の長次軍師

明石奥次兵衛ハ大岡の松

改文禄元年朝鮮攻乃村安板瀬と云

折して悪風小をさひ一か大お怒て内

裏の沖おて首と切らるけ亦と赤尾

瀬と云 阿るハ五條坂乃松母悪

七景清が別保一母なりと云もそ

恒成能奉と云ど大乃評理より出

るもの阿古登の松ハ年赤物授おる

新井白蛾ハ東都乃人幼年より

百家乃書と讀んで儒名を去つて易学

と云つて四方小岐也老ほ大乃程朱の学

と信お七十余おして卒す

山嵐三右衛門ハ元武蔵乃人信尾崎小

任して西邊新平といふ又役者と云

て三右衛門と改む古今乃各人小松嵐

乃程云より畧語と評し嵐くと稱さ

るより終小己が程と云

明石志賀助ハ寛永元年江戸で法

因乃相撲大勢と四谷垣町おいて晴天

六日魚一行と云を是物なり

荒木又右衛門ハ大和郡山乃人劍術武

道乃達人なりしが後追執負接死して

救馬仇討ふもるを助ち力くして法園
と備懸伊如え乃上野ふおめて橋井足勢
星合山下長士世ぬ人と付り大勇と頼も

西 赤塚右兵衛尉宗景八河合助宗が

子仁平年中武勇乃名あり **有重**ハ

小山田別當と号袂又重弘が次男治兼

乃比戦切中 **源平** **有國**ハ武孫三郎

と号武切あり小忠小おめて討死も同

秋茂ハ孫祐経が子元馬年中父々

同西國小下り平家と責て武切なり

武評 **敦盛**ハ平経盛が子太夫と号あり

永三年一の谷おて討死も同 **有綱**ハ伊号

仲綱が子文治二年六月大和おて誅せり妻

従と同意同 **有盛**ハ小松左少将と号も

重盛乃四男元馬二年勇戦して討死

平物 **明國**ハ田村を芳ち大宛称と号文

武乃達者建保乃比巻なり **團**

朝比奈三郎義秀ハ義盛三男建保元

年父義盛責朝と恨て合戦小及至先

小進んで此河責奇右介例をてと柄か

頭を控もとも運極る父と名め一討死

多きハ官おて切立がてと兵一勝大敵の中と

切ぬる小系おて房州へる又時と廻り

りてを説區かして所在と抄も同 **頭家**ハ

北畠中納言鎮守府將軍親房乃嫡子

醍醐天皇に侍て武切なり建武三年三井おと

改あり **孝氏**と西海へ退下も馬懸え年経

倉一責入義詮と彼ア又より上洛所乃合

我小松孫つ孫長途乃疲小軍備
延元二年五月廿九野討死也廿一年

頭信ハ北畠親房乃次男中納言小任す

延元二年且頭家討死乃後敗率と集め

退教共皇太子皇子天孫親王と清

伊勢より松小して而難同て多の松ハ

行めと知守親王乃松ハ勢州一吹と

そとて頭信伊勢より本國海軍

と治るて年ありまほ上洛して勇義録

西小おて討死也同頭能ハ親房の三

男南朝小任して教及乃軍切の事見

頭信討死の後小松乃國司小補せ

る伊加貝伊勢乃國司と教年合戦と挑む

二年七年後村上乃院上幸の村大將軍

と承子父親房と公洛して執政と有る同

頭泰ハ小島大納言と号頭能乃子清

二年南朝断絶乃後ほ小松の院小任て

伊勢乃國司職と安堵と皇太子表微

の後公家乃大納言國司と有る後

頭俊ハ頭能乃次男勢州本造小居信

よて本造乃所と稱す後頭盛ハ

左門尉加賀守と号秋田義景と子武

川の弘安二年二月卒と東頭氏ハ細

川陸奥守と号文武乃達人武のあり

觀應二年死年頭兼ハ之河内源氏

号三河乃人源太又判友と細と子武男の

武將也詮範ハ之色た京太又と号ぬ徳

乃乱小松孫氏清と村大別乃勇と年

松平乃大将と云ふ地実公考と書けり猛
 獸并羅等乃皮と取て伴國を討て
 多し **菅浦の前** 八雲の久人近湯院の
 官女仁平三年四月詔と云怪言何妻乃
 上と云はる兵庫の村に改てと云ある
 賞として宿の言ふ終るは改討記の後
 伊豆國河内山堂にて凡と云り彼菩提と
 吊と云り **平物** **愛護君** 八耳近江名を
 せどもいまご收改出所と云す但平酒は
 能經よりせらるらん **安部仲磨** 八
 房前乃子又中務大夫舟守乃子なりとも云
 靈龜二年十一月乃入唐彼沈んで批書監
 と云官小舟や名と批書と云子白羅
 等と云交と結ぶ手後伴物風小を云て終

中少て没きとも又云ふて病死ともいふ
續景 **安部清明** 八太郎太夫と号賀茂
 保憲が門子花山院太夫乃侍士寛和
 二年弘徽殿の女御恒子が死ともいふ
 天皇居飾後中廢出でて花山寺小女
 人是ともいふ清明空中と云て是ともいふ俄
 小奏向は百官等も来と云るは空洞の事
 是よりして名をいふとも **前太平**
安康天皇 允恭乃侍子兄乃太子と云
 即位三年小叔父草香白王と云教一を妻
 と云つて后とも草香白皇子と云眉柳と
 母乃竊愛小らて出と云とも是ともいふ
 ある村后乃勝と云とて外ありと云ある
 眉柳と云皇と殺と云歳みす六在位終三年

景 在原業平 八河保親五の子初名

受陀羅丸後中將清和天皇是く
寇とほりて傳歌乃違者又好色ふまの
宮仕公あり系后と違りありは奥州へ
下りて慶四年四月卒年六 **續景**

▲安徳天皇 八倉帝乃は子治承四年

即位時小三女攝政公乃てきやく天下の
事大小とく清盛沙汰と又都て福永へ
遷し程多き舊都小遷幸壽永二年幸仲
都と責むよつて西海小熟之文治三年亦
同々園小て一悲滅亡三位乃輝尼抱より
海座小沈て崩と八女 **平**

▲佐理 八圓融院小けて異朝き

聞さる能筆貞え元年四月内裏焼亡

依て天皇新造乃内裏還幸け行所この
額と勅して書し **平** 佐野内藏助ハ

細川乃家人は丹波守及武切ありて天女
共三年苦戦して討死後 **平** 佐野次郎九門

廓中して眼有る勢と殺し物すとほ
さへ逃んとして叶は後捕らるは古年の

阿表二階小物りありしは物すとて
いと多し **佐** 伯散位經範ハ三双乃勇者

海の軍被とてほ比類かき働して討死
平 坂戸判官則明ハ頼義乃后奥州責の

討ち切被評多 **武** 評 授ハ薩兵衛と
号武切りて頼政の信あり **同**

▲佐々木即高綱ハ秀義乃西勇武勇の士
頼朝ハ本系隆と責め小附き細軍切と

此 得川故事 百五十八

勳も永承三年本曾返討乃付宇治門
と波して武名と世に施して武評

佐原十郎九衛門尉義連ハ三浦義明ハ

六男又又七尺寸力武勇善人本姓建永三

年於東佐々木元近將監信綱ハ兼之乃

乱小宇治門と波して名も同

佐々木治部少輔高範ハ明徳三年出雲

の國と賜る治部少輔大少将紀を忽不

謀と以て平均と智勇の人圍

佐々木小次郎高重ハ江州の人應享年

中開方ハ官軍八尾の城を籠るを付十

みカを陣とくも名も同佐々木四郎義強

ハ武賢入るが子又又年中父兼禎と不

使小及ハ江州肥田小籠城を賢怒て

是と水責小と後平相馬四郎元門尉忠重

ハ不従人強弓の女志新田義貞不屬

てと柄も名も一里見冠者義成ハ

頼朝乃家人建久年中於君乃於尚穢

小補せしれ於て於母乃新論と可と有り

東坂井右近ハ美濃人始母友通宗と

く一は位長小はてえ電え年勇と振ひ

付死と貞世ハ今川伊豫守信房後

と号文武ハ達者三代將軍小應は母

四年二月九州ヲ探頭と有り柔比と教を

合戦慈永三年穢と止らと上洛して行

なく卒を後平佐々木間行ハ大侍る町佐

久間勘解由が正佐ハ下女天性仁志乃

志深く物々の己が版とんを勾人おとこ

東江文庫

日本書紀

きりハハと云る者も食ハ不念佛して
浮世をたふして大往生と云く

▲坂田公平ハ中興北条を文らみ津福
理乃作者金付が子として出で是より

て公平との著始る▲薩上次郎右衛門ハ
後津福云と号津福房を文ら招えり

▲佐々木岸柳ハ剣術を双入達人と一流
と極む九州にて宮本武蔵ハ後員と競

ひしガ忽不討果る▲佐賀摺ハ角町并
木倉が抱ぬる美人香と云く又俵歌と

好く風流云んかてなり云者ハなる男ガ
まろしと云尼となると名と和情と略

正保三年の比清を過不たを結ぶ念仏
して跡と吊ひいと云り

▲壱屋利兵衛玉屋勘五兵衛の二人ハ

万治寛文乃比猪牙取と造二挺櫓とて
山谷通ひの助けとす其おきりれを

乃めり猪牙舟ハ長吉舟ハ異語なり
▲坂田藤十郎ハ越後乃人上系にて後者と

なる奇舞妓一道乃貫首和事乃名人
天生の上手宝永六年に六十三

▲左七ハ本町二丁目乃系舟師おきとき
りひて妹小糸と密通しとるり後を文

津福理心んへりは白足より云引とる
多し

▲大將軍とて云の経藤三波王宮と貴の
取て津福を文の抜群又抜の美事

を松浦佐用姫と云至て是婦なり
日本

定光 八碓井頼貞尉と号碓井山の人
力量早業拔群の勇士頼光小はて武
刃多し世の公乞と西天皇とつて武評

▲定時 八松原小孫と号大孫と治定が

子頼信河越合戦乃時父の敵と并通
教と討取大別り勇士同 ▲貞盛 八陸

番が子孫守尉將軍武流と智謀深し

兼平年中將門運心と伯父國香と

殺して五命小孫と号村秀郷と謀

て將門と攻む貞盛失と放つて將門と

村を秀郷育とれつて急朝敵と討拔群

乃る名前兼 ▲貞任 八安倍村が嫡子

次郎と父力量東國小並ぶ者なり父と同

謀叛れ義と親小と救羊村流失小中

て死を後貞任大軍と起し大勝利を

得るといへとも終不運を厨門にて討死を

三十四同 ▲真衡 八淡路真人と号荒川氏

貞が孫貞六郡のまとして威勢真不

並ぶ者なり後の傳り主秀秀武小をれと号

そ後小後三年戦の基と起し同 ▲定綱 佐

々本掃助助と号秀義の子村流人の砌

父を命小よつて死所小なりあふ訪ふ村の末

兼隆と責る村定細戦切わり石橋山合戦

佐竹征伐小もる名あまよつて近江一國を

移りて京都乃發の國と号 ▲源平 ▲實平 八

土肥次郎と号頼朝乃老后石橋山乃軍破也

て五娘二人橋山小よつて心中の危急と流

ひて房州(渡)遠江運と用い頼朝出

世小宮甲て諸事實平小任と号永年中平
 家返討乃村軍切多後實平西國の
 乱と復め奉りて西國に住せし孫氏次
 改小早門と号永三年死 **實盛** 永
 井母友別當と号老切乃勇と号永三年又
 月加州に條糸小てと号友安おて討死を
源 **實朝** 頼朝の次男於家流罪の存
 家督と継建仁三年征夷大將軍小任を鳥
 山が諍死と後悔を文性歌乃小妙と得又案の
 陳和卿を勸ふらて家一活人と以て之を
 孫む官位を授け拜進右大臣と号永三年
 年正八鶴が困りて公曉が為小殺害せしむ
 廿八日 **鎌長** **實忠** 忠寄たる門討和国合
 我乃村武勇頭討死真田子一が子

定景 八長尾新の号武藝小達一太力
 多り速保三年實朝鶴居小て悪禅師討死
 後乃村三浦義村と謀て公曉と害と **鎌長**
貞綱 八守都宮下野守法名達寂弘安
 二年八月家古紀責奉ら村に教をて武
 田の **東** **貞時** 八小條なる権取と号村
 宗乃長男弘安七年父家督を相續して
 執権職小傳る村小西又法令村宗の世お
 移り乃乃と号仁慈と号と私欲を
 省せしハ貴賤皆を徳小治と号安三年
 貞行を以て法名と宗瑞と号法由
 と行御一非道惡行乃輩を刑せしむ是
 政乃急り行和さるハ我が過かりと云是
 と名が慈長三年十月卒去甲一 **鎌長**

と上手其事大が 百六

責むる小文止ていひさ卒小終つて自害す
大別乃勇力と中平 篠田平重門尉 流川
益がは智謀武勇兼備乃忠臣才可者
天正十年流川小條と合戦益大軍箇
まは難義乃一番小戦合せ討死と 東大

實隆 八西三条大納言と号傳は乃有
又孫奇小守と又能と公家と記さす
大納言公條文父小期子子安實澄三代お
續けて文學小名有り 公卿補 貞宗

彦四郎と号江州高木乃人正家と養子
後醍醐天皇元弘乃比乃名作名人
佐渡寫長五郎 八化渡海坊より正作と
との名人七化け孫胤乃風俗小妙とゆ
かりよつて海面上よりとまると

定棟 八陸陽助と号應永五年九月
足利義持不働乃事ありけり俊徳
兵衛作と天と後波一流一 定棟と棟
獄せざる是胤とほひも持とのらさ
るゆかり三代 重村紹巴 本性松井
氏幼小く貞祐も乃明徳院不任と
連身と因徳小宗一 後志意とひて法
格小あり大岡の統と得てと名まひ
も一又秀次乃師ととめて類とあり
當く三井寺小漏せると終不教とゆてぬ
洛一 慶長八年死 佐川田喜六昌復
永井家不屬して慶長乃比拔群のる
名あり又和歌不妙とゆて孫兵乃去河
ゆめ河津水陸乃美とけり 實永廿

一六六

年八月卒

櫻山備前守入道八之弘

元年赤坂の陣にて戦ひ自害す

守九中辨勤解由と号天馬又年三月卒

死年二十一人なり

帝施基王乃子又聖徳天皇乃孫天武の

子乃初王後小法師と号して道鏡と

つゝ辺乃乃田上小田河ありえ慶乃法皇

百抄

最明寺時頼

童子と号天性文武乃通とあり

後氏乃賢人なり寛元四年執権職と

なつて天下乃政事を行ふ事あり

備國と廻里比頭家人等乃松曲と号す

弘長三年車病小掛り法衣と号し最

明寺小こりりて年去三十七歳して世人最

明寺と号人東

佐伯氏長

越前乃人

大カ角能乃上も禁裏相撲小もして

上洛乃時に州も務めて大子と号す

大カ乃甘小聖徳ひカと号し一と号

又大子乃八百人の力ありて古今著聞

集小乃人なり

三條右大臣定方

父乃記如賀と号す

人百抄

坂上是則

父乃記如賀と号す

此處所の預りて倭守の道人同

木曾仲三兼遠

八中原格

号大別の勇士木曾兼仲の乳父樋口

今井が實父

源平

木津三光

門尉長光

水正の比大少少乃乃大別乃勇士

未曾中大光義 戦後乃人忠に貞實の

さあ永年中五君乃き道と練くこと

仲許客せとつて忠死 義仲 岸玄知六

出雲乃人茶道と好を又和奇小達也

競 八波道と身頼政の長治承年中

宗盛仲細が馬と乞止事とゆぎて

馬と中宗盛を尾接と切す馬小焼下

く仲細を私しむ父子奈惜の謀叛

企けき競宗盛と謀りるるくまの

償と解は盛又怒て競と搦捕んとれ

共さぬ乃勇さふもはけ事とせや一宇治

合我乃竹勇と活の討死 平相

橋次季春 公京都八丈福人鞍馬の遊那

まとけし陸奥へ下る世人と金喜吉次と

以後姓名と習塚跡を即景老と号と

義全 六里見法作と号安房の守

獲武勇の人弘治元年卒 **木村常陸丸**

八秀次の近は若州乃城五文禄四年背

搦州茨木おて切腹 **木代門大夫** 搦

能勢於木代村代住居して毎年交

のては縁とある名家神石と家小なる

木村庄之助 吉田退屈乃古實と信代

行司の家筋おとせき名を一京於小本

村おし助岩井一家大坂小岩井嘉七おぞ

け道おおめては心後と家お助なり

木梅太丈 大坂乃人猪本と梅本とまの

妙術と持よりつて秀吉大坂の陣中お

るされま名と木梅太丈と呼し

一三三 一三三 一三三

公連（六郎と号上総介良忠の子将

兼平年中謀及の村船敵を意とら
かたんと再性諫言将門怒り害せん

と公連少も動せんと存して自害す
前案 公雅（安房守と号良忠が長男

兼平二年将門謀及の村才公連義死
とを以て公連清親世音と信じて

彼堂文破ふ及ぶとえて再與せんとの
しうど成就をさずして公雅才が志を継

て天慶五年武藏守ふ任じて後尚國守
下ア叔音堂と神農して五年のを依

達と前案 金時（坂田五馬の佐と号相
州足柄山の産力多ふ不越せむ九つて万

夫ふある九一代のをも各々低くせむ

れ光平して後而在と知る同

清原貞廣（大別乃と号海軍破れ

て和義七郎小折をさる村力執して頼
義と園村（海と）武評 清衡（御館

権太郎荒門と号奥州乃大守法守附
將軍小任と清原武衡謀及の村義次小

屬して武四なり同 清綱（伊具十郎と号
清衡の子武勇乃遠人をも各々一同

清盛（安房守より起て従一位大政大臣
小即る世人是と平相國と号忠盛が嫡子実

白河院の落胤成長して船家と守護
して從小船成と輕く我意と振て宋耀

と極ると廿四年仁安三年清盛刑髪して
津海と号息女をて入門后宮かたつ安徳

戦けし時赤松たる即と討九る援群のるを
 又去の月満祐小随つて我教と討一之割
 乃士後牽▲清高ハ近友の邊の村と号主生
 近友有るが子武切わり建武三年山門攻
 乃村勇と振ひ討死と牽▲清氏ハ細川
 相撲者と号武勇強力人小勝るる氏武論
 小任て及く我切ありとて執事となる
 後我論ハ勅氣と系て南知一降糸之將
 乃号と獨て一都賣上るを後三國と奪
 ひ元んとして細川於之不歎くハ貞治三年
 七月獲波して滅亡と牽▲清成ハ和氣陸
 敷命と号清澄が子武切わり和氣のころ
 我切あり▲清秀ハ織田信秀の家年より
 監物と号忠烈乃士天文十八年信秀死去

信長家督と續ぐを行跡曰く守法秀
 是と諫共忠諫乃をるを悔て自害す信
 長志哀歎とてまを作を跡と帯ひこを
 より行儀と改る ▲清正ハ加賀虎
 之助ハ五斗頭と号秀吉乃は志津嶽七
 平篠の寺人武勇忠烈ハ和漢乃軍切事記
 小いとぬわし守法十六年六月卒
 ▲清原元輔 泰光が子肥後守と号後その
 達人▲喜代媛 紀州日高郡太田古村の女
 司女娘容兒免おして髪長く蛇更なりや
 之傳 ▲清原助光 八村上帝乃伶人平倉ハ
 乃近大蛇来て吞んとは公田乃名人 古史談
 ▲許ハ我門百仲と号しては風評乃諺
 師室水のほろが世乃人をもあ老井と子

去來 向井氏肥前人不随つて洛陽不
任し誰人ともあり高柳舎といふ十三歳卒

▲このいふ 美若傳つと号え小田原の若身

零為し料理心あると云吉原町にあり

臺乃也やと云と赤坂住出しあり其乃字

方(青と云)小中んと云より都々守ハ

堂を乃家名と云 ▲北村季吟ハ洛陽乃

人傳字小春一源氏源月抄二十卷と著

そよて東都て祿と多し再昌院と号共

外著述と云 ▲木村赤次郎ハ伏見乃浪人

寛永永年中之坂新町乃傾城町と云く

又佐渡乃三三傳といひ沈小後共云同

發す ▲吉備津彦ハ宗神天皇乃と云

西海道入大將つて西國と討後(又出雲の

根根と討て名に夫不吟也大別乃猛將手

柄多一 鬼同丸ハ元敵山小有つて子

市系不任童子乃源於信彌捕つて既

小をいふ通て頼光と云む其光鞍馬

滑乃付牧入牛不紛て悪び居るが又取れ

て討える 前平 ▲北田具教ハ訖言伊勢の

團司數代共威憐團不振小織田氏批

不勢別と讓て養子とて天正四年一家滅

北田具親ハ具教乃舎弟宗長の院

家不任して頑學乃團あり足滅亡乃存

南都と云ひ出還俗勢州(系)子播磨

諸士と傳し及く合戦といふも運不

て利なく毛利家と相て後ほ不任し其

かく卒し ▲紀名虎ハ左兵衛佐と号文佳

天皇乃以宁维仁正位讓之乃紀
角觥乃良考小正所位定有是時
維喬乃以方之伴の善雄と立合カ
大少場り々とも善雄が考ふに殺さば

▲清明 ▲墓崎方次と号勇之 ▲行珍 二

階堂行徳入道は行清と改て道達者
哉切多一 ▲東 ▲紀夏井 八十餘才にして若の

妙とてはり三代實祿小考一 ▲義鑑房
瓜生判官が才智勇の倍武負小園が

乃村は新交公考りして武負と背くま
村武巡昭屋武治と記す二夜武兵と上

て小園と記すは教習おわつて討死 率
▲紀國屋文元衛門 元禄室水の比乃人考

こゝろ吾系揚屋町屋張屋清十郎おつて初て

堤抜丹戸と考へては水部中との
水と通小敷てき水丸尻もけ村の名を

紀文祝儀とて辨めて合銀と考へりあふ
を外に考へる

▲紀行文 六俊長が子
永享乃以和歌といき名同也 ▲京の君

平大納言時忠乃女絶世の美人平家滅
亡乃後武経是と考へて考へてしるす

なる 武評 ▲喜撰法師 八橋宗良を号し
陽成帝乃村乃人哥通小妻一流小基泉

元亨叔書小窺仙宇治山お住んで長す
穀と腹せとて候と考へ一旦雲小基が

飛行と有り 百諸加 ▲紀友則 八橋友子
和哥乃遠く延長寛平乃以考へる

百諸加 ▲紀有常 八橋御後よりのお園の

目録

廿七 行基菩薩 八三 志へ相泉

乃人少れ時よりと諸國と廻り道場と

立る事多し聖武天皇降依乃修り行

基として天下と勸め盡余那仏乃令爾

乃大像と作りむ天平十七年大僧正となり

て天下殺生と禁しむほ又大菩薩乃号と

授せしむ行かく死八十元釋

紀一法眼憲海 八紀氏鬼誤りのす河門

小住して此言と傳ふ義経未牛若と云

附六韜三畧乃遺法と傳ふ義経勲

鏡月房 八洛陽清水寺乃法師大別乃

荒者兼久の一乱小勅令小請つて堂洛の

一向味方敗軍と生捕と既斬罪不

極の時一首乃方と詠と春時け哥と感吟

して一命と賜く東 八欽明天皇八継體の
下子都と大和の磯城乃小遣と治世十二年
小遣つて百濟由より佛像和て渡る天皇
文學とむふふのふを是と信せと稱同
深く佛依と後み経易得醫乃博士
又藥と和知る者少門多なる是日守へ渡
るの和なり果 八吉備下道真備右臣
ハ微賤より登才小登庸一太平勝室三年造
唐使とる和言は比彦成小はめて入唐
學文と好む智有る小つて上達佛教の
後育とる者さ一室龜二年致仕一
後行ありとる夢記四八十二續日本

黄瀬川の龜鶴 八彦兼乃拓経別添て

數く運不達之四年曾我十郎虎がえ還

時依徑進焉と云んで延宴と傳せし事
曾我知信ふあり
清原深養父
老若
介房則子相歌と能して又現うと鼓する
乃妙有る後精舎と構て隱遁と普陀
落寺是か
京極大相國ハ班好
んて蜂とまぐり伺とら五月乃比高相好
峰乃柄成け時峰飛散て少く強動ふ
及び相國批抱乃とととり現うの丸めて
ひき群がる峰と取て好ふ人をもとくとん
む
由良新九衛門ハ新田義
貞乃は武勇戦及くありと云え二年令
を請ふて自害とて太平
熊野ハ遠州比田乃
長女娘平宗盛とを乞とて甚幸とぬる
久く都お上る舞の上手なり
由利八郎ハ

武勇技群の人退かど
結城七郎朝光ハ小山朝政が舎弟武
道の達者戦四多し建久六年三月南都
大佛供養の爲に船上流あり船光供養
して上流とて小参堂の対流後門内ハ
むらぐりへるを村探系と云はんとし
論ふ及び大元狼藉ふ及んとし船光將
軍乃使者として辨説と吐大元と恥しむそ
勇義兵又兵者あり
東
行雄ハ清堂
三郎友孝の尉と号し奉行が子武切あり
東
于晴ハ相摸ふと号し郷乃子安和
二年西宮のめり遣り時流る
前太
行家ハ新宮十郎義盛と号し義乃末の
保え乃一乱父と所忠滅亡行家は野不統く

力果山家書
百三十四

耳子草草成 百七口

治承年中頼朝兵と揚十郎是も屬
大武威と稱ふ秀永年中兼仲と曰く治
中(九年)秀永と西河(返下)とて秀永補
せし行成と改後長経と同言ふらて
頼朝甚疎せざる文治二年六月泉州にお
て戦死 **源平** **行長** 八位 源守と号文武乃
達人洛東の吉水に隠して平家抑
と化す君臣号名として又徳乃冠者
と号之臂乃比 **三代** **幸氏** 八海野小
太郎後なる五門尉と号弓馬の達人
秀永年中清水冠者乃事小付將
く筑后後味良盛及逆乃付武功の
嘉禎三年八月時頼朝を圍ふて鍋
馬の村泰村乃令ふらて弓馬乃次

悉く時頼小供ふけ付よ中諸大者海
野を以弓馬の家と名せざるを以武功
多し **東** **行光** 八特野民部大夫と号
武功の事と和哥と号を建保二年十月
大雪降て遠近の難を有らふらて實
朝行光が館渡津を付行光馬と遊上
して和哥と号する實朝返哥ありし何
も秀遠との **東** **行秀** 八河内守
秀司と号弓馬乃達人和那須野特
乃時康と号頼朝を討たんと有る
行秀畏て敢ふ當守小山朝政を討
と私辱と名ひ狩場より髪と切り逐電
を自智定房と号して後所在 **東**
東 **行平** 八在束中他言と号河保

親王の子事有つて播州(五邊)のち

又帰洛して寛平六年卒七十五

行成(世尊寺)の元祖大納言と号

至ての私筆と名倭漢の國也

四年十一月卒と云ふ日本三帝の一

なり(義)行義(二階堂)五門尉

和名と号武乃達人(文永)六年卒

東(行盛)多田判官(兼)久乃法軍

の授(群)から(同)之藤(八幡)次郎(五

門)尉と号(江州)の人(弘治)乃(比)武(四)あり

同(行遠)八尾(三)部と号(後)行(三)の

武乃乃(遠)人(和)哥(妙)あり(同)行(義)の

城(品)部と号(貞)義(三)子乃乃(名)今(三)の

武(四)乃乃(五)我(六)隨(七)時(八)小(九)桑(十)遠(十一)の(十二)の

と号(定)宗(三)子(執)事(と)なる(智)勇(乃)の

之(亨)え(辛)六月(卒)去(也) (五) (行)忠(ハ

二階)堂(四)部(五)左(六)門(七)尉(八)後(九)信(十)濃(十一)入(十二)道(十三)と(十四)号

執(事)職(正)應(三)年(十)月(卒) (同) (行)忠(ハ

大澤)大(次)女(と)号(山)城(乃)人(武)四(乃)

哥(道)の(達)者(と)つて(永)正(辛)中(カ)を(解

乃)成(と)給(ふ) (東) (行)景(ハ)浦(上)七(郎)之(為)

村(と)号(備)前(の)右(衛)尉(應)安(七)年(三)月

義(滿)九(列)下(向)乃(村)名(馬)名(劍)と(道)上

と(武)運(と)祝(し)む(る)忠(教)の(士) (天)平(一)

行(實)ハ(新)田(大)藏(助)と(号)里(見) (後)行(三)の

子(武)四(智)計(と)名(多) (行)重(ハ)中

津(八)部(五)部(と)号(武)勇(乃)乃(尼)子(乃)家

人(之)文(乃)比(と)名(多) (後)行(三) (行)政(ハ)多(ク

良三評大境と号光連がみ北條時頼
 が謀及小味して討死鎌九代之長八三
 好俊前守と号武通乃達人系於小く
 カ我討死後平之細八松下加多
 尉と号遠門のく武四のり承祿の次
 行長小伝▲祐勢特野氏又玄瀧
 とも書と大牧助正信と特に初
 合て画法と雪舟宗丹小まらひ
 一家とらん特野画派の祖吉
 法眼元信の父也▲雪信探幽の孫
 氏政が女中と女番信と稱して名
 画さり 祐天題卷上人真阿彌茶
 村新書長を弟が子十家おてお家
 園通和尙乃末子とる信やて

カあり祐天寺の開山夕霧八崩屋抱の
 女を伊豆と訓漆く人中と立所
 とあり妻一ハ河波の門に出す
 行章二階堂三郎左門尉と号行方
 子武通の達人文永十一年四月卒東
 祐葉ハ後右四郎正真又佐俊
 瑞之法師と号義教小仁く特野之信
 が下給とて膨とよと信古
 今の名ハ永正九年五月死キニ
 弓削道鏡ハ孝謙天皇の宮と云く下
 踐と側近く侍守天皇ハ慈母下
 謙とく二帝の心中不和押勝とく
 乃後白く改と行ハ存謙重祿の
 其法々の位と授所を存帝位又

百十七

はくをくく和風の清唐より防られて
事付す考謙出しく下野の國へ流
されく後あり病れす **續日本** **貞長天皇**
若原字合子至武天皇小仕神龜
天平の比一人説又文屋綿唐が子か
まとりよ又世俗に傳ふといくを公と
いふ虚説を **西譽夫** 八下徳の國を葉
のく又いふ葉貞胤九方かしく出家至徳
二年う参上人の曾子と成海云宗の
門より入貝塚に地をゆく一字と建立
す是今の湯上寺也永享十二年より叙
七十五 **妻鹿孫三郎長宗** 八赤松が
去すえ弘年中京攻の河國公がもろは
く赤寺羅生門に至く大カ猛勇の

名と顯は一人當ふの士あり **三郎** **妻鹿**

三郎四郎長氏 八長宗が孫累代赤松よ

属しく武切あり嘉吉元年九月八

塚合戦の阿久野源八と組む人けく

ぬくく勝負とこく寸大別の勇士

あり **後平** **毛受莊助** 八尾羽の人

十二歳の時柴田勝家より仕小姓然とつむ

天正年中勝家と秀吉と戦き敗す

分付より及み踏止りた勢あり働しく

主人より密り討死す **自貫屋長之助**

八瀬角倭校の門人京教より住す八徳高

館より津福理と作ら後陽成院の

敵軍より入くく津福理太史の交

顔と信く是津福理芝居の元祖あり

百十八

百七十八

銘八知

八楊弓原の谷人丈楊弓と

ふと八楊と云く弓と云くをよと云く
あり迄代花桐紫檀と云其角と云る
事ハ此一知より初る一知ハ江戸に住す

七

峯八郎

八天正二年織田云

七信孝より信長に討死す
以勤る事信長に討死す

三並

八神功皇后異國退治の時將軍

十人の共一海上の先陣あり海童の玉
と備進す皇太后は遊了之韓と云く

満

六渡遠右る乞と号武乃の遠人

白河院の比武者例
義明が子数代相別は住す

義明が子数代相別は住す

その大谷平治の戦義平は屬す大

創十七緒の二人が戦義兵と楊念時

忠烈振群あり又義明討死の後房

例へ下す忠勤守頼朝大將軍補任の

例は宣言と請ありひそ義澄が

武功人遺るがありと正治二年正

月率七十四源平

宮城ハ白河院應保

年中洛湯は住す其比ハ遊女と云く

位の酒宴の席は招うは存速永二

年法然上人後波へた遷の時積年

川竹の眾はと懺悔入水と云く

満間大谷ハ初鞍馬の推又信長は

はく鬼と云くは武勇振群のく世の

く是とハ麻の長末と云く義

三浦義村 百廿七

三浦義村 平六郎 義澄の子 治承

と号 戦切 根群あり 曆仁元年 卒 東

三浦胤義 平九郎 利友の義村が舎弟

小糸美内 恨有りく 久米在京 可

承久の乱 官軍に属し 討死 東

三浦良賢 律原の義村が子 宝治年

中兄 恭村と初く 一族 悉滅す 此

村 良賢 伊豆の山中 隠年月と 送り

弘長元年 返送と 全く 鎌倉におく

講く 同 三浦 時高 永享年中

持氏 武引く 糸勢と 防入し 守内

苗も しく 強倉あり しく 敵は 送り

しく 主君と 生捕る 諸士 三浦が 子

と 悪む 何言 先 悔と 悔く 自害

三浦 義意 荒次 命 渾身 強 道寸 子

武勇の 真あり 永正 五年 七月 又 同

生害 東大 三好 長輝 流あり 入 希雲

え 細川 頼之の 幕下 しく 叔代 忠

切と 寸 永正 四年 六月 友 頼 細川 政 元

と 家へ 香西 倉 寄 送 意 しく 主

君と 叔害 寸 長輝 是と 聞く 細川 澄 元

と 人 ぬ しく 責 あり ぬと 討 永 五 〇

育 大内 義 興と 合 戦 又 及び 長 輝 利 子

く しく 又 子 一 所 生 害 寸 三好 長

基 筑 あり 法 名 海 雲 大 永 七 年 〇 〇 〇

責 上 しく 細 川 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

四年六月晴えと大将とくくする四と
 厄傷おく合戦を四とてすきより
 武威下誇く晴えと不知やあし天文
 年中晴えが為る害する同 **三好** 統
 前も修理大夫長慶ハ海雲が子又晴え
 が為る害する天文十八年二月二好家
 二と降論よむび晴え宗二と貝頭負す
 長慶怒る宗二と責む晴えと武威ハ
 宗二と救すく海中に至る宗二討死
 晴え敗者くく武威並つりより
 吉田が子氏綱と取立友領上を晴え
 別髪くく蟄居す後又畿内南河と
 執事とらると教年かく永禄年中
 卒 **三好** 義統ハ京を又ハ長慶が養

子永禄の和長慶が實子長松永が
 為る毒害せし居長松を没く後松
 永後と逆威と据ハ義継と進く謀
 反と起く義輝と救害く後又
 天下と奪んく信長を為る威を
三村 高德ハ野ハ傷中のハ天正
 二年三村元祝謀反の河同とくを
 山の城に居る小又ハ教万誘くを
 与る傷城中を誘ふれハ名取切んと
 せくはと女房ハ勵されハ死す傷と
 く戦死 **水野** 忠重ハ和泉守
 号天正年中成くの軍切あり
宮居 服部ハ古今と成の角刀の上
 自え起え年二月江別ハ樂奇く

み 早き故事大成

百八十一

角刀の何信長とて慶長とて、知て
 重義の弓と賜ふは角刀よりと後
 なる知あり **四** **岑守** 八征夷將軍迄
 江守と号小野堂が祖又 **滿仲** 六孫
 王の痛子左馬頭鎮守府お軍督仁
 勇あり天徳年中強盗と後く安
 和二年より乃た遷の内繁延と生
 捕又千晴又子と誅す老後致仕
 多田院に住し **剃髪** 満考
 号長徳三年八月辛巳 **滿快** 八村
 畠下野と号経基の次男武通乃
 達人 **圓** **滿成** 八多田出羽介と号滿
 仲の猶子天延元年館(強盗)押入
 せ内賊徒と討死す武名と顕し

同年五月辛酉 **道長** 八兼家之三男
 二帝のる政と執く天下と下知事
 して十餘年一條三條當今の系
 八皆我誓ひり男子八撰政大信或ハ
 八相と名居堂塔と自立すると身
 よろく御堂の関白と子万壽四年
 薨六十二赤染工門が作る所のお神ハ
 此榮花と誌と **武評** **光貞** 八後醍醐
 と号説貞が子貞の一人光貞が孫ハ
 勇婦ありとろく貞任をとりと
 てゆらす其以光貞他所に至る貞
 任行路と塞く狼藉よ及び終よ
 六礼の根えと知れ **同** **光任** 八大宅
 ちまし号和義のらる備の軍督と

久野子古事本

百十一

光茂終よ七結とあはるる所被群乃
 する谷ありの勇双の勇士 **通正** 八年九月
 と号平右三郎が四男の勇士保
 元合戦の後謀るる **通弘** 衣袴
 入道と号武乃の達人 **光保** 八出雲と
 後友とくく好 **道廣** 勸学院後人
 号光國が次男平治の礼信 **光基** 并九郎
 出家とく信救とよ大友未乃逸の文
 人治承四年頼政謀及の所 **通信**
 奥後と **光胤** 此僧と書しむる
 文中清盛と賤悪まるの結あり清盛
 いろく謀せんとする **通清** 河野四郎と号武乃の
 友仲と属く **光胤** 景真が子伊勢の

改し **通清** 河野四郎と号武乃の
 達人 **光胤** 景真が子伊勢の
 正月比類 **通信** 河野四郎と号武乃の
光胤 景真が子伊勢の
 人武切あり治承五年中 **通信**
 後兵と揚 **通信** 河野四郎と号武乃の
 河野四郎と号武乃の **通信**
 後兵と揚 **通信** 河野四郎と号武乃の
 軍忠と励す同二年赤 **通信**
 又忠と踰す **通信** 河野四郎と号武乃の
 守護職と給 **通信** 河野四郎と号武乃の
 と号武勇あり **通信** 河野四郎と号武乃の
 属く **通信** 河野四郎と号武乃の
 防めと号弘盛が子武勇あり **通信**

大和川

百廿二

年大内と改じ同 **光經** 八左門尉と

号光長が子武切あり 壽永二年

討死同 **光平** 八幡太郎と号光内の子

壽永二年山内少く 養仲と戦ひ勇

と顯 **光長** 八幡太郎

判友と号治承年中さる余の官方よ

属 **光房** 八幡太郎

為養仲と同死す同 **光盛** 八幡太郎

人号淺野光房が子壽永の比武切

あり同 **光盛** 八幡太郎 金刺と号

養仲の比從勇士あり 壽永二年篠

原合戦の内實盛と討取さる同

二年光盛影田のひひく 比類あり

討死 **光政** 八幡太郎

号正清が次男元暦二年八幡まく討死

全成 八幡朝の子阿野忍禪師と号

武切長尾寺よ住 **愛智** と称す

建保年中山内少く 為 **東**

光景 八幡太郎と号建保年中

和田合戦 **譽** あり **光家** 八幡

賀次郎を侍尉武道の達人建保年

中侍所の司と号 **光季** 八幡賀

判官と号京都の守護を以て因承

伐の比企を号 **光季** と号

勅 **應** せ守後を北院送禱有ら

大軍と号向 **光宗** 八幡賀

て向 **光宗** 八幡賀

武部丞と号 **貞應** 三年六月後内庭

ナ 甲一 文書大 八十四

死嫡子泰村家督と續何よ美内が
 後室政村と世よまんと斗るを附
 光宗一味信濃の國移る光
 光時ハ谷越後ちと号新阿子
 室えと平父の遺跡と續何れと
 何れ執信殿と棄れんと謀るを
 本頭と伊豆の國に流る同光方
 河尻六郎と号らるの達人よく度く
 高名と顕す武略皆川宗貞高名
 五門尉ハ中沼内家子武道の達人
 光行大和河内と号奇人あり
 原めの作者同通晴ハ河野對馬
 名法谷善恵と号建武三年五月
 ちる氏九ひより貴土内河との蒐

和田幸俊の戦ひは切あつて
 史お後々軍切莫太多大平光繼
 ハ六の田將信が子武切あつて貞和二年
 九月者并る合戦は討死同光政ハ
 秋山新藤人と号大別の勇士觀應
 二年も氏父子桃井並と門原にて
 戦ふを河を攻めあはし居る河保
 ちとと戦ひが互は太力と棒とと
 折く相門守師並下知く精会教
 十人といふ秋山と射る秋山おら梅
 と名款の矢光余能と打落一味刃の
 陣ハ何るお代末圓のさ名同通直ハ
 河野をいふと号通晴が子武勇の
 士康暦元年細川能之丞備の勤

氣と氣と讀彼國は下向す此時通並
一族と假し戦ひしれども大に家なれ利
と考ひ終り自殺す **幸六** **同** **通昌**
河野刑部太補と号通並が子康厩え
年父細川は死れ傾知と棄れ用防よ
漂泊將軍家不便と思右宮下せ入る
と考りくさるる通昌上と云とひり上洛
せしが播磨よおわく處死 **天通** **通義**
河野通昌が子龜王丸と号通並討死
通昌年々々後後満哀多ひら出く
本願と号す **同** **満幸** 山谷播磨と号
源氏が子高家の痛流と継ぐ四ヶ回
と傾す及乃のく仙洞の山傾と犯す
後満忠く死知と改易す満幸面目

と冬ハ氏清と進み礼と起す時徳
年中氏清討死の後戦場と逃去り
西國へ下りて後生家々々々 **同**
満隆 八尾長房督と号満兼が子
永正四年正月徳倉まゝく生害 **同**
満直 八尾長房佐祐村と号奥がの
管領と号す武勇の人應永六年
卒 **同** **満泰** 八尾山九少将と号のき
能が子應永六年泉別堀まぐ討死
同 **満家** 八尾山尾浪と号基國が子
應永六年泉別堀の戦ひより大に弘
と知るる名後群まぐ父死去の後
その家と継ぐ長持の徳知と号す其
以將軍父子夢死義均乃舎せり我田大

ナニニ一文字大府 一四八

偽正と還俗ありし將軍とすうのく
威光亦盛なり其後病死 **關平** **滿推**ハ
小島大納言伊勢の國にありて永承二
年長持と對し謀りたり長持はと
責小磯中水おけり馬と矢倉の上
白米とんそと洗く茶と欺く寄
自保と心込國と解く去り其後
和佐とあり **同** **滿祐**ハ赤松系を
号し長則が子嘉吉元年八月長教と
館へ請じく不意に般害す後系
と去りく白旗の城に居る京都
大軍と率く責まられ **滿祐**と
一家悉く滅 **同** **滿宗**ハ白井次郎
九郎とい号 詮常が子 **滿**は居る

去切と勵す **通種**ハ重臣因幡守と号弘
治元年陶尾張とすえ就嚴徳と
戦ひ尾張を利と失ふえ就 **通種**と好
有信とい使者と賜く本所安徳の田と
子重見洞と流し回恩と捨く好恩
と荷り武士の恥はみせりと忽ち切
腹す義烈の人 **圖** **宮田**が母 **ハ山名**
氏清が妻とて明徳の軍に氏清の
討死と捨く迹より **牌** **宮田**は手
と懸りてあり **切** **宮** **名**
稱す **宮本武藏**ハ肥後の人を信豊
あり其れを奉仕又諸國とつぐり
術と傳ひ寸仿ら本岸柳と立合乃
勝負と及し **討** **果** **寸** **名** **譽** **の** **人**

ノ 早 川 古 事 大 成 百 八 十 七

溝口何某ハ寛文の以春日野の鹿を
里より出く田圃の妨有るより角と
切く万民の患と除くる仁愛公正の人

宮古路を後ハ中が中の中と号

一中死後一流と語出すと國を更

がとらふ世は傳ふを後帝のとき

都古路ハ中近江の抱宝永年中

二人の禿と連りたの各皇是と各

乃共願智とみり開分明うは後

存二人先と連りたあり

明称ハ甲禮師の各人京於に任す今

を職分の姓とせらる

大筆の男本名忠實天保二年撰

津大目と任す奇人秀逸と云

皆鶴姫ハ紀一法眼が娘長経よお列

く其跡と慕ひて名く陸奥まで

つらつらと名をとり百里の池へ入水

しと紅守長経の跡りは一宇の

寺と立難僧寺と云

ハ土生に任す重元忠衛が子泉大將

定國が隨處に厨子所横は太目寺

と云くとも名と知らる

春屋と号る名密圓師の曾子康曆

二年僧録目よ任せし僧録と云

とはより始る永徳二年相國寺乃

開山と云

東方進修の内先と云く朝歌と

七寸本朝武政のうらまを後大伴と

カ日ノ文事ニ載 百八十八

稱す又る連る兵とてく物部と
 号く後代女兵と云とて皆此
 謂あり **日本** **道主命** ハ丹波の軍と
 号崇神天皇の女将景行天皇乃
 以守道主の娘とてく后妃とすま
 出宗神帝四乃の軍と定て四夷と
 退治す將軍の号是より始 **同**
御諸別王 ハ景行天皇の勅と奉て
 蝦夷と討てて地と領す代く東國
 乃守護職とて **同** **明惠上人** ハ高
 辨と号紀別の人又重國なる倉
 帝の侍り意十海のく出家り
 柵尾寺に住す行法と號し **同**
 又系の種と宗領よりぬく柵尾

又極宇治の後す日本茶と極る乃
 始り寛亮四年寂 **元** **し** **信田**
小右衛門 ハ奥州の國に云々の勇乃 **東**
斯波義重 右兵衛督ハ高後の孫と
 義将が子三藏の随てく共威
 勢乃軍は双ぶ戦切あり義将の附
 管領とて共檢ますく強し
後 **斯波義廉** ハ義健が子哉あ
 四日應仁の比家督と論し文唱
 三年五月家入朝倉平樂又さる為之
同 **志那又左門** ハ京師の人右實
 一とてく香と好し十種香也
三 **時平** ハ基
 孫が嫡男仁和二年十六戊内裏にお

ろくえ辰天台自か冠宥人平五年
 中納言又任左大臣とある然ども道
 實が親しく盛を承ふよりぐと
 信むの心あり又伯又回経が妻と棄
 く世の幾と清當今の即位の附
 源光基亦定回等と謀く其逐
 相と終し築紫へ遷し其威
 強し延元九年四月薨 卒九 **大系圖**
 清水冠者義重ハ清水平申又を仲
 の人質とくく頼朝へ送るが頼朝是
 と誓と寸茂仲保河の後害すべし
 企あり義重逐電に頼朝義重次と
 河とくく追ふ入河川の追ふ
 至るは義重が家人義重の義重

と討非君は慈歎く母政子と告
 政子立腹く義重と押送く義
 内と終す **鎌倉** 鴻の十歳和哥の前三
 人ハ白拍子とくく洛陽に住す永久
 三年名羽院の竈とひく禁中へ
 出る **静** 儀の禪師が子容貌は
 小く男舞の上白拍子義経の
 妻とすは義経奥別へ下分の付吉野
 小く捕れ 後義重へ下る **義重** **真**
 津三郎忠久ハ頼朝の子建久三年丹
 後の房懐怡政子と殺さん
 本多某へ送らば多岐り密に房と
 仰く平産の仔あ部野に隠るが
 朝上洛の付細く對面義重の陥り

一五九十一
 一五九十二

大隅薩平六平と云ふ成人の後重忠
が聳と云ふり武勇は譽らるる

推谷胤平六平ハ元暦年中平家と

乃く武切あり

赤橋と号内國が子弘安七年謀反

小より流罪

累代の名家永正五年義植西國が

上洛の内軍と号

師鍊ハ虎岡禅師と号

住敬博学の僧後醍醐帝ハ元亨秋

玄と奉ち

千葉外から末若別の人天心元年若菜

後昭信長と号

士と若狭より上使されども同人

等義勇武切の士

修理左衛門伯と号大剋の猛将年来

武威と九剋

と合戦後創發

百井備後守

君生害の何者よ自殺

か吉ハ女歌舞妓の名人を結知

ハ寛永の始大坂より

始るる

古の吟個歌舞妓

支考ハ東花西花と号

濃川の

中真之

乃

知

ハ

凡雅と業としく所くよ好よ室永
の比治る一誹書教篇と著述す

鹽瀨山城

林和靖の末胤山和尚

の宗小入帰朝の法を法と傳よ是

鳥老匠胤の祖家良慢頭の子

高勘丸衛門

系族の人塙を何某

衣類いらふ及ぶ家作忠むよ至

とみゆ徳とるひ是とん谷と寸

回

敏春茂ハ出羽外と号 惟茂の老男

生くを行方と知く寸又母懸く尋

よ所あり四年と徑く狐塚より速

得より狐塚とく老翁とあり子と

抱くよ此子日本の國主とるまんと

さひいど今其位よありはにさり

なれし陰あきると取へしとそく其ぬ

まより七代お積りく資盛よ至り

重成

秋田城介と号

永承六年二月安倍頼朝謀及く

王命と背守成行向く戦ひく

利ありく川退く

重任

於

内が六男比治の弟と号交勇あり

重宗

八佐清と号勇士承暦二年

八月妻家よとて

重實

八佐清の

源太と号弓馬の達人を羽院の武

者所四天王の其一なり後朝よをカハ

徳の冠者よとて西田多し後英濃

よ至く生害

重隆

八佐清の

と号平治の戦ひ後平よ討た大

上野由重九郎
百廿三

八割の勇士文治五年衣川に討死
重朝しげともハ榛谷しんがを所と号重朝しげともが子元
久二年六月力戦して討死東重成しげなり
ハ指毛いさか三郎入道と号小山田おやまだ有重ありがねが子
元久二年六月衣川の戦いで討死
重朝しげともハ榛谷しんが四郎と号實じつハ守忠しゅちゆうが
子元久二年滅亡東重定しげさだハ山田やまだ之
生と号守實しゅじつが二男為朝なりともと生備
守切しきりと号守實しゅじつが受領守治承二年及
右みぎらう渡わたりて保元たへん重父しげちちハ山田やまだ之所
大隅守おほすみのと号守継しゅけいが子承久の戦ひに
勇と號し討死東重遠しげとほハ浦野うらの信
濃しのと号武勇ぶゆうの人長朝ながともの尊たか保元
重継しげつぐハ太原たへん太原たへん判官はんくわんと号度たかく

武切と號す承久二年宇治川と
渡りて後出のち出で文永四年六
月卒去東重基しげもとハ行田ゆきだ太郎たろう在門
尉むらじと号基澄もとあきらが子武乃むのの達者貞永
の比ひ言こと各多おほく重親しげちかハ大串おほぐし次郎じちろうと
号重忠しげただが一族武切むきりの本もと乃の合戦
に出陣いしでん言こと各あり東信西しんせいハ少納言
藤原通憲ふじわら とうけん入道と号博學はくがくありて
倭漢わいの才さいありて沈淪しんりんす後白
河院せいかい堂どう庸ようと号近衛ちかえと号政務せいむと
執とく権威けんいと振ふるみ信賴しんらい謀まわる者
朝あさと諱なづなと号守實しゅじつが子元もと寂阿しやくあ
菊池きくち肥後ひご入道にだう守内しゅうちと号累世るいせい肥後
の國くにと鎮ちんしと武各ぶかくあり元弘一げんこういち礼

重朝
重成
重定
重朝
重遠
重親
重基
重継

の何藩は友軍に属し々筑前乃
少貳豊後の大友とおゆー探題の
莫附し合戦軍はよぬ公智一々
菊池と責む寂河怒々を子武定
と不個へ敵し々討死世の人夫は是
と称す太平重政は足助九郎し号室
範が子え弘の軍に波羅少く戦ひ討
死す同條塚重廣 伊賀まい守忠が
末孫大カ勇猛の士度くの軍加業
紀は違す義貞乃は四天王の一人あり
義貞討死の後後助は仕曆應二年
義助卒去の存いす所在とも居者
か同成氏は永壽王と号持氏乃
末子永享年中父亡し々後出家信

濃に蟄居享徳二年長尾入道京
郊へ勃し々鎌倉の官邸と寸上秋
憲忠と対ふし一族降起し々又隱
念と責むし々鎌倉を落す古
河は退き以應六年九月卒去東幸
重友は栗田八郎し号石川大庭が家入
嘉言元年八月播磨蟹坂の戦ひに
京方の属し々比類なきる名後幸
重冬は長平五郎し号天文年中畠
山と合戦敗軍の存佐本よ奉仕す
能列長乃え祖同亮其伯景子三九
三尉は永禄年中浦上宗景に屬し
て軍切あり小早川備上と子楠の内
スある働多し同下山甲斐守ハ大

忠 早可 萬事 亦 百 廿 七

割の士あり天正年中改有く獄中よ
て自死す **鴻村** 九るゆへ細川高國乃
家人亨祿の比た傍まき言國対死
の後八方と打極りて歎二人と服袂
と海入れを忠念鬼面の蟹と成
先と修村蟹とよ **庄司** 志在門ハ
相引小田原の人天正十八年京都よき
より傾城町開基と名ふ別ゆきや町
の下まき昭地と名り居え和四年お
月より店と開く芳原とよ今の吾系
是あり **甚助** 八備中柴本村の百姓也
承應年中至孝る居よより傾主
より永代の領地と名る **柴山元昭** 自
傳と号肥前の人早業より薩より

黄檗の門に入博學の人 **敏兼** と高
かといく **賣系** 公和といふ室暦十二年
死 **俊秀** 八山内須後後通子平
治の礼よ又対死の附い若年ちよよ
いづく三井寺よ **出丸** 刑部房と号
治承四年宇治合戦よる名いり対
死す **甲物重明** 八松田右近將監と号室
經が子武道の達人言谷より **俊初**
正治元年五月宋國へ出建暦元年よ
改朝いり後律宗と名い泉涌寺
の開山いりいり **長** **紹鷗**
八武田因幡と名ふと号天姓茶名
と名んぐ **心願** 八佐本名房九門尉と
年死去

八 甲川 故事 亦 百 廿 七

年号古事本所
七十一

白河院（白河院）ハ後三條帝貞一の皇子延え
四年即位歳少といふも政とさく
永保三年法勝寺と立佛法と瑞
依寸中宮薨（中宮薨）く歎の悔り位と讓
藤節法皇と稱す大治四年八月
出師す（七十七）在位より政と聞と辛傳
二年よ（一）及（一）順徳院（順徳院）ハ後を御
三の皇子承元四年即位何（一）十四
采久二年上皇徳念とととんとを
めりく合戦よ（一）及び（一）以利運
佐渡の國ハ流され仁治三年九月
どの國（一）出師（一）甲六東（一）稱光院（一）
後小松院の皇子子承元十九年八月
即位正長元年と在位十六年此

帝の御即位（一）年号改元（一）く
永（一）く（一）用らる（一）縁念上校（一）と（一）
▲淨瑠理姫（淨瑠理姫）ハ失刺の長者が娘絶世の
美人斗若奥外へ下里の阿（一）深く
別（一）儘で薄墨と（一）苗と輝（一）斗
若東（一）の内（一）終（一）と（一）幕（一）く
亥（一）義（一）嶋寺の袖（一）ハ白拍子舞乃
上（一）氏貞金（一）存（一）く（一）船（一）遊（一）の阿
洛陽より招（一）く（一）奇（一）容（一）と（一）ひ（一）寸
美人（一）大（一）酒（一）顛童子（一）ハ大江山の山中
住（一）強（一）益（一）面（一）と（一）老（一）似（一）せ（一）く（一）人（一）民と
困（一）し（一）く（一）相（一）支（一）そと（一）謀（一）河（一）す
と政事（一）略（一）く（一）生死（一）の（一）
本と号（一）尼子の家（一）人（一）十（一）男（一）の其一也

皇門故事大成
百五十八

上中... 下中...

え龜二年正月毛利八方の勢とて
山中慶成が所留置の城と音
付寺本城外八方の敵中へ入く御
事花ものどし... 敵と八方へ追
まくゆ敵中より兎王を南とよ大別
の勇士らかと河原へとまはる鏡
鎧とてく忽友人と実伏せそ首と
再く本陣へ立寄る身は人其勇後
と感ず神功皇后ハ仲良帝
の后天皇の御... 後懐妊の御
て自三韓と討く每宗八十艘の貢
と備降降しあひ抗蒙よおわく平
産まへ子應神天皇を也そ後
天皇の喪と後... 天下の政と

執行い慈愍と万民よこれま在
位六十九年あり出ず暴
江間島ハ後武所ちと号建保七
年正月實朝他宗の所出あ一体
之烈ありく武切多一東**江田尾**
張る隆貫ハ天文年中後存まう旗
とよくえ就と戦ふ勇士甲軍
蝦夷ハ後我の馬子子皇極天の
御大伝とる所所本有の所り已う祖廟と
葛城は造所共儀ハ天子よ順亦入
鹿とて徒黨八方へ逃去忍... 詮
方あり家傳る日記賊宝と悉
く撰ハ源渡
が子孫も府將軍に任せり所あり

もて切多し **圓喜**ハ長孫入道と

号光細が子高村の位成乃の達人

正慶三年五月強念より討死 **大平**

鹽冶高貞新友ハ文武の達人出雲の

然と戦切多し 暦應三年二月高の

伴直公下の諺言よりく縁せし **同**

鹽屋駿河守ハ武勇の人天正の比ハ

度く乃軍忠あり **江口の遊女妙**ハ

秀人あり江口村あり西行よりく

同 **各州**賜答の奇縁とて **同**

越中盛俊系日 **ハ盛**個ガ二男秀永三

年二月一の谷より討死を双の勇士

圓重ハ河越ニあり入乃と号

勇士あり **延壽**ハ高基の長女大

炊が娘容兒と云あり義朝より

妾より住平治年中義朝亡び

く後尼とあり **圓** **永忠**ハ信都

と号宗福寺の住職弘仁年中入

唐より帰朝の後 **信** **帝** **信**

と系と歎す是日本へ茶の傳

路あり **圓** **仁**ハ主生氏下

の人九支あり **圓** **心**ハ傳

教大師と師より入唐經云

茶念佛二昧の法云と云く **朝** **大**

觀六年正月寂士 **論** **云**

大師と号 **同** **榮** **西** **号**

依中吉備津宮人十四方の内ニ家

安養寺の靜人と作より **叡** **山** **乃**

...

文覚と宗教せしむる代よ
又平氏の子孫と取まぐ世と西援へ
えんくく隠岐の國へ流され正治二
年死所はわく慈死す録長

ひ

比企 親友 純貞 頼家の妻若

狭の鳥が又此版は一幡公誕生より外
戚の威光を演し建仁三年お守を

まひお守天下と取方よりく地頭

職と千幡公は譲る足小宗が斗ひ

と大は怒り内政ととんと謀るは事

うけく天野遠景仁田忠光も備

そと教す東 **備前** 平四郎成房

後あち兼房が子成経ははく教房

も治と顯す **義** **久** 渡邊源吉

細が子勇士あり **等** 八右兵衛尉と

号越仔人彦くま治と顯す仔

出 **隆宗** 永正八年舟岳山合戦の何

後植と供奉くく切始あり **隆**

平賀成頼 入道源心と法名す大削の

勇士天文五年十二月武田晴信と戦

ひ勇と振ひ討死 **平野** 権平

長養 **長** 秀吉の志傳 **日根野** 信忠

の一人戦功多し

は武蔵の達人信長ははく後又

秀乃吉ははく戦功多し **秀** 権

織田寧お信確が子文祿元年信雄

下野か歸洛の何越あゆく五万石

と領す

白根野 冰次登門 八傷中もが信長よ
仕く戦切りの後又秀吉よ物仕す

左甚五郎

ハ伏見の人後播磨の

石よ住すこの上よりく彫刻よ妙

とほより秀吉永十年四月死四十二

一説よ志五郎関東へ下りしあは

忙あき子宗心孫勝政よ至るまで

皆京よ住す 廣田孫七兵衛ハ中

國危き勇長狼牙の戦小討死す

平賀鳩溪

名ハ國傳風来山人と

まゝ天竺老人といはれ物寄牙蜜宗

と自ら小論一審案と新造一杖

州学ともいふまゝ近松が業と臨

津前死とけりし

廣嗣ハ大宰少貳と号天

平三年下道の真備と信玄助

と改名とけり一志世と乱す彼と除

くく上表す聖武帝是と用はす

廣嗣怒り謀叛帝位と奪んく

大野赤人が為よ戦死 人元天

足利相人命の後教達天皇の心の人

家門は村の樹有るまゝのく外氏と

す上世の奇人石見國とく卒又

一説よ天智天皇の心の人とす

天守府 法守府 將軍古今奇異

のらん大木の田原の甲よは

田原若と号し康平年中將門謀反

皇朝古事考 二百三

の内平貞盛と心と合く軍勢と倍
 一相戦ふ将門終よ未らつて其
 軍功よよく武名下後の守護よ
 補せし所をか一世の武切記よ違ふ
 後神と現守廣常ハ上総と号
 保え平治の戦ひよ源家よ屬く
 切りの頼朝石橋山の軍破安房へ
 逃るる内違系源家よ忠ありと
 共謀叛の疑ひ有るよめく殿中
 しく殺害すむね一生の不覚とく
 是と悔ひ憐れとあり武評秀義
 仍本源にて号追討の個よ住す平治
 一乱義朝よ従ひ戦功と勵す義朝亡
 て後奥羽へひんくく相持國よ奪

滋谷重國よよめく春社と道房と
 九年治承四年頼政と比源氏治を
 せ所術形好より義兵よめく頼
 朝出世の功賞とありとありえ久
 二年四月卒去潭秀義ハ佐竹が
 尚田と号隆茂が子也陸の守護治
 承四年土月滅す同秀衡ハ出羽
 の押原使鎮守府將軍陸奥守と
 号累代の大谷仁義の勇者又佛と
 稱依す宇治の平等院と撰く
 一宇の堂と建文治元年長經秀
 衡と頼奥羽へ下向別衣川の城よ
 殺すく号故す同三年病よめく
 卒去九十二東秀義ハ金剛寺當

一 故事 後

二五二

乙 三 五 事 本 月 二 百 五

と号伊達泰衡が家人一誘當子
の勇士文治五年秋於奥列攻
河河津程山と号子孫念勢法
貢く城兵悉く敗走す秀綱が内
勇と号の討守東秀方ハ須後
太命と号金剛秀乃綱が子奥羽
陰あす大カ十三方ゆく文と同く阿
津程山と号子孫念勢七十八歳と
薙伏カスり一はと小山行光が
家人一行長と子一の是と討也同
秀康ハ能也と号後ち西院高
の侍承之の礼と起すの張本より
官軍敗北の所戦場と適く南に
よ下つと承久三年河河山と生捕

六條川原まゝ謀せしむ所
行長公命と号武勇の達者後経
の信名多し一廣元ハ大に大
膳を因幡も法治覺河と号文武
の達者頼朝の弟山家より至る
天下の事大小とあく家家政務乃
謀合人一体ハ西あゝく智も又傳
人先と末世の賢人といふ嘉禄二年
六月卒去今二見關ハ作本右
橋門廟と号承久合戦の所系方よ
屬守同三年月尾の大豆津とあく
勇と号の討死東秀信ハ岩山尾
法おと号系極宗氏五男延安二
年正月丹波めく討死廣有ハ

一 丹 波 文 治 二 年 二 百 六

隱岐次郎五門尉と号廣茂が子園
 白良基の侍弓馬の達人達武元
 年七月怪も些震殿の上よ来り
 主上と憐をる世付執と奉り射
 尊守希代の子柄同 **久時** 八赤橋
 母考ちと号武勇あり永仁元年
 二月六波羅の山の方と上洛
熙時 八小條お撞ちと号貞内出家
 の後執符の連署より **正和** 元年
 瘡病を罹り狂人のとくん氣障と
 くとく **年** **北** **廣茂** 大江因幡さ
 と号武茂の達者我歌又通達し
 たる人 **國** **弘正** 八大内修理大夫と号
 義弘が子に信三 年大宮三度の戦

討死す將軍家を武切と感
 其子藤丸とるく **加** 中曲の
 庄とま **國** **弘護** 八陶範前と号
 義弘が子に應永六年二月京河原の
 戦ひは勇名と顯す **後** **久政** 八浅
 井丸兵衛尉後下野守と改亮改子
 實ハ氏綱が西男天正元年八月虎川
 前山とれく生害す **廣** **賴** 八吉
 見大花太輔と号永禄年中 **中** **國**
 の合戦小武切あり **中** **秀** **忠** 八
 澤田武考ちと号六角家の経下
 弘治の山と名多し **後** **木** **乃** **氏** 八
 乾甲卿又ちと号江別の人永禄年
 中信と居く戦切あり

且子書事
 二百六

▲**秀昌** 八幡野丹波と号六角家ノ
屬しと号武名と顯す ▲

▲**秀盛** 八種村大膳と号弘和和田

山の城主とあり天正二年九月死

▲**秀信** 八法師と号信忠の長男天

正十年信長生害の存尾列より安

ふへ後子房知少と号と信雄後

見とと号吉後順と号生後

徳と号と号出居と号後皇中納言

と称す終小紀伊守野山と号

されく信幸と号▲**秀吉** 八尾中村乃

人毎日輪と香と号と号懐妊す

天文五年生居童名と日吉と号

いまご返すより何をのりおひさ

松下加吉清と主人とす幼少あり

永禄元年自本下後吉原秀吉と

号秀吉と信長と奉仕するの戦

功筆記と違め守後羽柴統元と

と改む一体ハ不学あり共軍初より

こそ事む妙信長を存自物と天下

と掌握し諸大名の廉位と事水

の流局と就とて天正十二年関白

と任し功成名とけく後関白職

と秀吉と藩と文禄元年朝鮮と

征伐す四年秀吉と殺し慶長

二年八月伏見城小おわく豊六十二

▲**秀行** 八幡生免洋の侍と号

氏御が子慶長十七年五月卒去

の判形さし諸出あらんとよ日並速
 乙卯判と加ふと使然とく美ふ
 満産を勇氣と感亦 **武署** **飛脚屋**
 右き候ハ梅門ハ別傑く家と出漂
 泊せしと候る所記本ハえされぬ
 大方義たまより云ありせるもの
六 **鬘の無休** **ハ** 幫間頼作口合の上
 中て生瀝結と延一 **雨** 六と智各と
 せし男作よりくが比云休と候乃
 外月とつけくきくも武内田中
 何某船と日本堤あり喧嘩の日
 大なる船あり一大事と出出く
 船云告 **一** **柳正之** なるハ江川公角
 系のは弘治の公出切度あり

九 **常陸坊海存** **ハ** 和心坊と号丹
 波のく又ハ須知五帝源氏累代の后
 又討死の後釈門に入つ諸國と
 仲行く多年長経仕へて後群
 の切りの文治五年判友とくを後
 所在と知 **示** **義** **父** **明親王** **ハ** 信
 深草院の皇子正應二年十月元
 服し征夷大将軍と位し関東へ
 出く村に十六名唯康親王の息女と
 しく **以** **基** **す** **心** **安** **之** **年** **貞** **祐** **の** **え**
 ういよふく **勝園寺** と **建** **将** **宗** **是**
 乙未 **信** **威** **持** **強** **一** **延** **慶** **元** **年** **八** **日**
 上洛して **嘉** **暦** **二** **年** **薨** **何** **五** **十五**
東 **也** **三** **本** **林** **可** **成** **二** **虎** **王** **門** **尉** **ハ** **濃**

めの人武勇あり元年改めよ
討死す信長の名 **森長方**

半島、天正二年中言谷、討死す

森長勝 武勇あり秀吉に属す

毎度武勇と顯す天正二年尾羽
長久保、勇と奮ひ討死す

森刑部 射術一流の達人京都

蓮花王院、おの東、法華の
おのく、三十二間堂と建立す元禄

年中四禄よつ、今の永代橋よ
るの、**持世** 大内氏系、

号、弘が子、又、河原の後、持盛も
將軍家へ降参す、中、給
り、又、家督といお世よ、諸、

元年、教と赤松が、
せ、れ、**村築地**と、
立、海、の、小、龍、と、之、
よ、の、く、家、門、を、
森田勘弥、
右、命、を、
是、の、
守興、
皇、の、
日、本、
年、よ、
基經、
さ、の、
魚、清、

元年、教と赤松が、
せ、れ、**村築地**と、
立、海、の、小、龍、と、之、
よ、の、く、家、門、を、
森田勘弥、
右、命、を、
是、の、
守興、
皇、の、
日、本、
年、よ、
基經、
さ、の、
魚、清、

武田家書 二百十

大小とあり執政し〜**檢**と取朝廷
 と從トしト居トと肩トと取分者あり
 子孫まあり〜**常**小寛平二年正
 月薨死す時は辛巳六日**基****衡**ハ御
 鼓五節と号出羽陸奥の押領使
 秀徳勳ガ又武内舎ノ**盛**重ハ千
 壽丸と号之教覺法下の四人也
 白河院南部於以幸の所白出られり
 格別の魂愛と信く至て兵重**盛**
基盛ハ安養判友と号清盛の次
 男保えて年十六也少く宇野野親
 治と生補多多後宇治門よお
 わく流死す**盛**繼ハ加地三節
 無傍と号依本秀長ガ二男也

源家の名は元暦元年も来り
 高戸の海と渡す希代のも攝大
 祿とす後入道〜西念と号
 正治二年城資盛五運の何討り
 白河院南部於以幸の所白出られり
 後群の言名**盛**久ハ八節左門
 尉と号盛國ガ二男年家の侍平
 氏滅亡の後宥預有り清水寺
 千日詣と知し路次〜攝捕系
 去屋京遠行て漁倉へ下向を罷
 斬首と極中比が廣也外出り
 盛久と害せんと守共附大力信は
 折く殺めり又於於の室家
 二女の告められり〜殺せり

日本書紀卷之二十一 二百一十一

又賞と給ふ是希代の事のあり
 加^カ光^{ミツ} 茂^{シゲ}光^{ミツ} 将^{シヤウ}帥^シかか子^コ伊^イ豆^{トウ}の
 人^{ヒト}安^{ヤス}之^ノ二^ニ年^{ネン}為^{タシ}朝^{チウ}と戦^セひ治^チ承^{シヤウ}平^{ヘイ}
 仲^{ナカ}石^{シヤク}橋^{ハシ}少^{シヤウ}よく勇^{ユウ}と顕^{ケン}し討^{トウ}平^{ヘイ}同^{ドウ}
 盛^{セイ}澄^{テイ} 横^{ヨコ}津^ツの判^ハ友^{トモ}と号^{カケ}平^{ヘイ}家^ケ乃^ノ
 侍^シ山^{ヤマ}國^{クニ}合^カ氣^キの討^{トウ}死^シ西^{セイ}評^{ヘイ} 基^キ貞^{テイ}
 行^{ユキ}田^タ刑^{ケイ}放^{ホウ}交^{カウ}と号^{カケ}武^ブ別^{ベツ}の人^{ヒト}戦^セ切^キり
 貞^{テイ}永^{エイ}元年^{ネン}九^ク月^{ゲツ}死^シ寸^{スン} 關^{カン} 師^シ時^ジ 小^コ
 衆^{シュウ}お授^{ウケ}さると号^{カケ}宗^{ソウ}政^{テイ} 男^{オウ}武^ブ勇^{ユウ}乃^ノ
 人^{ヒト}貞^{テイ}時^ジ生^{シヤウ}の^ノ後^{ノチ}想^{シヤウ}時^ジと二人^{ニヒト}執^テ事^シ
 連^{レン}暑^{シュ}と号^{カケ}む應^{オウ}長^{チャウ}元年^{ネン}九^ク月^{ゲツ}家^ケ方^{ホウ}
 亡^{シヤウ}雲^{ウン}の爲^{タメ}に死^シす 二十七 同 基^キ時^ジ 小^コ
 衆^{シュウ}お授^{ウケ}守^{ウケ}と号^{カケ}阿^ア免^{メン}が嫡^{テツ}男^{オウ}乃^ノ心^{シン}
 美^ミ年^{ネン}の^ノころに執^テ権^{ケン}の^ノ名^ナ代^{ダイ}より正^{テイ}和^ワ

四年七月貞^{テイ}顯^{ケン}と号^{カケ}入^イり判^ハ乃^ノ
 連^{レン}暑^{シュ}より同^{ドウ} 基^キ清^{セイ} 存^{ソン}友^{トモ}を^ヲ判^ハ
 友^{トモ}と号^{カケ}初^{ハツ}は仕^シへく忠^{チュウ}義^ギあり
 よく後^{ノチ}任^ニの^ノ者^{モノ}僕^{ボク}職^{シヨク}とを^ヲ治^チ平^{ヘイ}居^キ
 元年^{ネン}賴^{ライ}家^ケ改^{カイ}勢^{セイ}の^ノ始^{ハジメ}基^キ清^{セイ}が所^{シヨ}
 願^{ガン}と改^{カイ}易^イ守^ウ於^オ於^オ於^オ 百^{ヒャク}日^{ニチ}
 守^ウ後^{ノチ}浪^{ナミ}軍^{クン}と号^{カケ}承^{シヤウ}久^ク合^カ戦^セの^ノ討^{トウ}
 系^{ケイ}方^{ホウ}は属^{ジュク}し敗^{サイ}軍^{クン}の^ノ討^{トウ}降^{カウ}人^{ヒト}を^ヲ出^デ
 基^キ子^コ基^キ綱^{カウ}を^ヲ教^{ケウ}ふる 東^{トウ} 師^シ直^{ジツ} 言^{ゴン}
 武^ブ勇^{ユウ}と号^{カケ}え弘^{コウ}平^{ヘイ}中^{チュウ}号^{カケ}民^{ミン}官^{カン}
 軍^{クン}は属^{ジュク}せり師^シ出^デ陣^{ジン}と号^{カケ}戦^セ
 切^キめずと号^{カケ}は建^{ケン}武^ブの大^{ダイ}亂^{ラン}の
 後^{ノチ}友^{トモ}家^ケおとろへる氏^シ武^ブ運^{ウン}と号^{カケ}同^{ドウ}
 よく威^イを^ヲ後^{ノチ}群^{クン}あり貞^{テイ}和^ワ元年^{ネン}

正行を討く春後法例と碓氷と主
 君と輕子亞武仲並と訂んく
 返く亞武仲並が為るは南から北觀
 應元年亞武南朝へ降参し
 原並と合戦なれば每度利と多
 を存する氏と亞武和睦を以て師
 亞武のあり降参しはるは師
 路次あり討せしは因^師泰^六
 然るもと号師並が舍する氏の
 執事元弘建武の末戦切なり
 其氏出世の後武威は誇くをれ
 とある其弁神社佛閣と被却
 又海東の枝橋の在登が所地
 は山莊と述んくは理あらず

人史と并く先祖の墓原と碓
 窟す^{在登}とせし師泰大
 いうの在事と殺害す希代の惡
 逆觀應二年出運はく誅せらる
 同^{完春}ハ毛利小太郎と号存佐中
 方と改二隅入道謀叛の侍將軍
 方とくは江川の先陣は進と亞武
 の大初と顯す同^{盛長}ハ大森
 七と号伊豫の人久刺の士速成二年
 湊川合戦の侍御門定禰は誅し
 其の戦ひ正成は版と切しむる
 て賞祿莫大あり侍大森を思
 一誇く猪桑酒宴と傳しるは
 正成が亡るまゝく去て七度より

正成が亡るまゝく去て七度より
 二四十四

狂人とあり山野と走り海と潜る
盛老が親族は禪僧あつて大般若
と真讀しりけり盛長在氣仕然
よきのり同 **基氏** 八代左衛門督と
号する氏の三男觀應年中後
と名する師を上に私憲頭と執事
とする氏正を不仕の後新田義貞
と討畠山道隆言が亂意と行跡の
諸士の所領と没収するまゝに及
折言と進出する後芳賞と戦ひ
後いちと討取貞治六年四月
卒去 **同** **師氏** 八代右衛門督と
号する氏の子曆應年中後治言
貞と討く武勇あり文和の比友

兵と責むるを賞とらるゝ乃折言
之れありくそ也と得が山谷大
怒り伯耆へ入り南方は屠く京
と改む長詮洛中より防とくも
叶すく江別へ落り神南合戦
よ師氏底と名する康安元年赤
松平がく戦ひ新城と責むること
多し是より父子は威徳以後
之れを和睦しく益一は徳昌
同 **師清** 八代右衛門督と号する
元年又討死の新田方は忠義と
勵すといふは忠義と達守を存
傳子の村上長弘が家と徳く共
威と徳四圍より **同** **桃井直常**

山崎氏家系 二百七十五

播磨と号する氏の一族始在系の
何正成と原とくく軍法と學より
て年略勝分建武の紀軍切多し
延々く年顯家と戦ひ大に本切と
顯す然も恩賞輕しよめく忽
敵とあり吾氏と合戦度くよふ
山谷何氏謀人の何も同意す也
武勇後した申す吾氏又子へ降
らよく卒去を孫正和が代よ
り一家滅す可同 **桃井直和** 中務
か備と号大割の勇士然中の個
うく長將と合戦しと討死す
某國 八島山右門佐と号義深
子義満九羽征伐の何又子軍切

よめく河内守護を補せり
子銀破城と貴藩守内垣二年よ
氏潜謀叛の何共切大を多よ
て侍所の目とある應永五年後
領職とあり同六年大内氏と討
和泉紀伊の兩國と成寸成威す
く盛すく應永十二年三月卒
何よ幸五 **國持** 六島山左門佐法
名徳本と号累代後成と學と
年老く男子やよめく政長と狼
背しく家督は定む仔實子と
儲く後就と号ぬ人其跡と論
して數く合戦は皮びし
ハ天下大亂の根えといかり

北早良事考

二百十五

師重（ハタケノシロ）ハ久下（ヒサノ）下（ノ）戸門尉（トノ）ト号丹波の人也
 徳二年四野合戦の内山名が借足
 小應ト又將軍ヲ屬トク忠戦す
 其子小次郎（コジロウ）ヤもる（モ）る（ル）義満（ヨシタカ）
 奉仕す（ホウジス）盛信（モリノブ）ハ関白（関白）也
 法名萬徳ト号高（タカ）ノ戦切あり同
 持氏（モチウヂ）ハ左大臣（左大臣）督ト号滿兼（マンケン）の端
 子應永年中政務總道執事上
 秋諫（アキノサシ）トも許容せず是と跡（アト）シテ
 滿隆（マンリウ）ト謀叛ト云（イハ）ル高（タカ）ノ合戦
 乃後送敵亡ビ再び鎌倉（鎌倉）ト
 一ノ程（ヒトノヒラ）ガ程（ヒラ）ガ程（ヒラ）ト云（イハ）ル駿（ウマ）ノ
 乃永享十二年持氏自殺す四十五
 歳（歳）ニ元久（元久）ハ三浦（三浦）ヲ以（以）テ号阿蘇（阿蘇）ノ子

又鎌倉（鎌倉）ト仕ヘク討死す其比元
 久ハ天也（天也）ト禰（禰）ラ分嘉吉元年二月也
 別渡門（別渡門）ノ邊（邊）トテ將（將）トテ守（守）トテ遠（遠）也
 ノ奪（奪）ル（ル）及（及）ク御（御）トシテ呼（呼）トモ云（云）ス
 新（新）ノ門（門）トテ飛（飛）入（入）ル流水（流水）ノ衣（衣）分（分）テ陸
 地（地）ト行（行）ガ（ガ）トク（ク）ト忽（忽）トテ施（施）宮（宮）謀（謀）トテ至（至）リ
 種（種）ノノ神（神）靈（靈）天下（天下）ノ安危（安危）ト聞（聞）テ
 衣（衣）ハ（ハ）何（何）カ（カ）唯（唯）志（志）ガ（ガ）トク（ク）トシテ（シテ）往（往）ル
 素（素）百（百）日（日）ト経（経）リ行（行）年（年）百（百）年（年）ト云（云）ス
 卒（卒）去（去）守（守）同（同）持（持）豊（豊）ハ山名（山名）右（右）衛（衛）門（門）督（督）法
 名（名）宗（宗）合（合）ト号父（父）ノ遺跡（遺跡）ト云（云）ス但（但）
 子（子）トテ（テ）所（所）寸（寸）分（分）吉（吉）元年（元年）赤（赤）松（松）ト号（号）破（破）
 テ切（切）トテ立（立）後（後）別（別）營（營）トク（ク）宗（宗）合（合）ト
 以（以）テ享（享）徳（徳）三年（三年）畠山（畠山）ガ不（不）良（良）ト憤（憤）ル

是と取柄ふと甚根籍あり康正
 え年未松別尚と討押く上洛を成
 志強し勝え是と怒く合戦す此
 何天に二裂王城の西の家全東勝
 えが陣所と成るべく洛中いやはま
 公家の旧記故實多の書藉兵火の
 為る悉く失滅す角く東西あく
 お戦し七年未勝負も変りけり
 文治五年二月陣中よ病死す七
 元長 公吉の治部少輔と号え春が
 長男大か異相の人世俗是とて
 鬼吉といふ公吉の勇者あり
 元親 公相仲理進と号備中乃
 護累年の仇字表多ととんと

謀合天正二年信長又三村と謀る
 よめく俄又逢守小川あく三
 村と責むえ親計の妻と門く
 落去せしが途中よりく刀鞘より
 自刃とせむと爰に至く自殺す
 元就 初毛利右馬頭後陸奥守と改
 む安藝よ住す武田敗軍の傳は
 の兵士皆毛利家よ属す尼子暗久
 と致年合戦共何あり天文廿年
 大内が居陶尾長とと敵あく戦
 ひ大に勝利と得尾張を滅せし周
 防長門平城あきり生雲と攻り
 尼子降余大内も豊後ありあく
 戦ひるるが毎度お負はる自害

且日事考

二百十八

寸元就威勢強大おしく都て
 十ヶ箇と傾し元承元年六月卒去
 七十五歳 **元澄** 八桂能也と号元
 就の侍天文元年松田庵法也謀反
 の附元澄村薩と璠守元就大よ
 感平氏の教誨よおし元澄と
 能也とよ任 **同持賢** 大田美波
 ち法名道灌と号上权定正が老后
 半勇東略兼備の士武切多し文
 明十八年謀せしは世何よ及んぶ
 上权必枝をり合戦志がくも止付
 お **東元弘** 八陶隆康が子鶴子
 代丸と号天文元年又主君長隆の
 命は勢と対れ寸を何九也母と

狼育す弘治二年十五才よ及んぶ
 出陣し江良隆細と河取大別
 の武名と顯す後性と宇野と改む
 入道し道と号武切多し
元源 八空戸あ藤と号元利家
 二属し天文永祿のふる軍切多
 多 **盛** 八分神右門尉と
 号勢別侍天文の比武切あり
元貞 八孝義五郎と号せし
 勇士元龜元年山中鹿久と陰と
 今守山中笑く汝れは向く敵すハ
 豊子男ふかを恩賞よ命とハ賜る
 ありしりく馬と案しハ父よ
 谷底へ落かふし命とつる

圍元範ハ三村宮内ヲ捕ト号天正
 二年三村元規ガ謀叛ニ因リ羽見
 の味ニ成リ居テ所家ノ富屋大族々
 野ガと起リテ敵ト城中ハ入
 方々防ガク落リテ終リ討死ス
 守武ハ荒木田氏伊勢ノ神官連
 敵ノ遠人キテ惣借ト夫ノモ秀ガ多
 一 望月五郎土佐光成のつん
 画ト若ト後小雪淡ハまるい系ト
 侍ス 諸木野弥三郎ハ和州秋
 山ガ弓馬ノ達者天正年中勢ガ
 合戦ノ内信長ノ陣ニ入り秋山ト
 悪守城率ガと射ト子雨猪ハ
 野別ガとシテ共同四五町と射

渡一休の女者と松の女は射死ぬ
 信長大ニ感賞シテ多ク是ノ慶
 災トシテ敵陣ハ退ルカ
 守園家時 由進ハ伊賀ノ人キ切
 り天正年中兄金物重病ニ臥
 家阿松ナ時ノ後継ニ承消シ其度
 及ガ病ニ復シ竹預テテテ社
 頭ト造營シ若死ハ社壇ト院
 へト祈所ニ定業トモ終リ死
 家阿子社頭ト儀ズルハ神ト信
 一似テトシテ行現ノ宮トヤク
 其悪行ニ後秀吉ニ奉仕可
 慶長ノ始メ大坂ニ住守地置乃
 御棟本居ルカ

守武ハ伊

勢の神友ありて博學の人として
謝諸より一守國ハ泉列の人

大和徐子好と故より當世乃上
手物草太郎ハ圃列ノ名あり

とていふも赤松成誌本とて守
十帖原氏物草右衛門とて後を

浮石理よ出寸十の利久の若名
盛章ハ存縁と号す乃の

遠人との愈の官方より一樂あり
盛明ハ真八田孫大前と号す馬乃

遠人基明ハ新友左衛門尉と号
基永が子寛正の戦功振解乃

はる名あり盛守知親王ハ久の
親王の長子延慶元年八月征夷

大將軍又任ぶ何は十七年正慶二
年五月言何滅之の何別後

日本七月豊原三三三護良親王
後醍醐帝の皇子兵部卿親王

号始天台の室に入存又還俗
大塔の宮とて子勇智急修一

弘乃和天下と王道は深せし
事と天と密終と顯く天宮を

置と及落大塔の宮も吉野の城と
捨く深山は隠るを後園ハ長久

親王の令旨と相一ありて起
言何後ハ滅之小至存より征夷

大將軍又任ぶ一入洛建武元年
空源ありて關東ハ流るれ日二年

正長が為る害せし同 **同** **物加波**

藏人ハ徳大寺實定の侍也

秀成の物たる異名とゆなり

存物許ありて琴法と作信と

と名ひ妻を夷ありて糸四弦乃

琴と作しし異なりと云

世 **關勝藏**ハ関盛信が二男也

秀吉はへく武切あり **關四郎**

ハ盛信が長子天正二年始別長

勇と稱し勇と稱し討死す

千宗忠ハ高尾門尉ハ千曲カ後群ハ

足利成氏の侍 **瀬尾兼康**ハ高尾

と号備中の人平家の侍大別

勇士豊永二年十月廿四日

勇と稱し討死す **西阿**ハ毛利

為人を入道と号大別

の勇士大江

廣えが子宝治元年二月

浦素村

が逆を討ち合戦す

地あり

徳久自殺す **東** **紹智**姓ハ

教内家ハ西洞院ハ小治

住す

利体の言ハ後大徳の三玄院

ハ寓居也茶道と行くとあり

瀬川菊之丞ハ孫津田地田川の宗

徳門と云ふ人役者とあり

次身は上達しく二々の津よて

不佞事乃各人とあり

室曆六年死す **是齋**ハ津田氏

寛永年中宗本と云ふ者基と

復た起りて中散と南の
 梅生は東海屋のふわりと共給の
 海内は中 **世** 壇丸ハ仁明帝の
 内乃道人乃は繁と守世人
 公物とて敦實親王の難武延志
 の守りていふ誤記又盲目あり
 去傳ハ然とてはも達坂の関より
 往來乃人としてく **十** 壽ハ漢會子
 百人一着あり **世貞** 赤松院
 裁の長が娘容貌美なりとて又
 優し平の重衡をよゆ **世貞** 赤松院
 の入りて号武切軍忠多し
關原重治 とハ英法の人平家

近の士江列森山より長経は合
 云礼と振舞るるが忽より **義**
全鼎 益田入通と号石尺の四乃
 人武勇の士永祿年伴毛利を以て
 属して度々戦功と顯り **承**
承公 ハ多摩尾久石門尉入通と
 号天正の比るあり **平**
 天正平年武勇と號し **雪**
雪山 ハ小村三立と号肥後の人文
 學あり諸國をなす書よめと
 たり **盛**
盛親 ハ仁
 和寺に住す **智**
智博 世子
 谷譽とけり **魁**
魁 と會其振舞の奇ありと

多し又能筆隱關口弥左門ハ

仔住ハ号和加那山乃人清牙

桑樹の名人後ハ和奇ハとよ

寸秀邊多しハ清玄櫻姫ハ年

をさるるありありハ世成事寸

くかハ梁笠ハ宗玄と子傳の

墓あり是より大の鑑知ハ里

老の物知ハ誌せり是よりハ

清水寺の僧清玄と作れるり

袖鏡とハ後大文海猫理ハ宗

去が事ハ勢多伽丸ハ

依ハ瓜廣ハ西男仁和山所ハ

帝ハ子武通の達者ハ久平五

月と有つハ謀ハ少く寸東六

千壽王ハ頼家の男和田茂盛是

とちる立謀叛と企ハいハも

名叶ハ滅ハ寸聖武天皇

ハ文武帝の太子神表元年即位

念佛法と好ハ天下と勸ハを

盧舎那仏と作る其頃又奥列

より和ハ黄令とハ貞寸皆入ハ

の物と寸天平九年位とハ徳

居飾勝蒲と稱寸帝王の髪

とハ落ハ寸ハ天平より始る

天平勝宝八年ハ山ハ辛ハ日ハ善導

大師ハ念佛ハ之ハ昧ハのハ乃ハ理ハととと

世上の愚民と居通ハへハトハ心

念佛ハ之ハ昧ハのハえハ祖ハ清少納言ハ

世計 卑小 文 七 切

清原元帥の女御は御世が奥
の乃の達者又極る城と作る

書岳和尚ハ生實の山所長明の息女

太平寺の住持誠源念の尼寺

教如池の禪尼追福の為建

立有る教代お績の所房の

望見住持書岳と棄てて妻

とせしより寺類破とありと

由以之浦の何某建立しと

松寺とす **須藤俊通**ハ刑

部丞と号多朝の侍大割の勇士

平治元年二月洛陽河内面

討たす **平鑑** **須藤瀧口**ハ後通が

子玄勇の人平治年中侍賢門

の軍破く後又とあかしく討死す同

首藤範季ハ親長の子忠義才一

乃人多海の戦し勇と顯す

勸ハ源三位頼政の長子功あり

純友ハ法性寺伊豫守と号

良範が男武藝之達人在京

の附将門は命を比叡山より

王城と入りてとて遠心の子と

と国若く言と逐ハ将門ハ王孫

をれ帝位は昇べし其の

姓をれ関白とす其の

将門ハ東國へ去り純友ハ西海に逃

る謀反す将門ハ先よてびを後よ

純友ハ滅す **純素**ハ純友の

舎身しやうしん春宮権亮はるみやまのりやうと号大別おほいりの勇
 将しやう足あし西にし側がはより謀はかりむ寸中すんちゆう比ひよ
 至いたるる足あしのの間ま不和ふわのの謀はかりと
 をを源げん家けへ降くだるる事こと顯あらわるる
 思おも勝かちああくく寸すん同どう資し盛せいハハ新あらた夜よ
 右みぎ邊へ結むす伴ばん将しやうと号市いち盛せいの次つぎ男おとこ
 嘉か應おの二年に十一じゅういちのの内うち基もと房ふらうと對たいし
 不ふ礼れい狼ろう藉せき寸すん又また大おほ怒いかでかくく資し盛せいと
 勢せき別べつ鈴すず鹿か那なと流ながす配はい所ところ六年ろくにんと
 經へくく及およ治ち元げん曆りやく二年に西にし海うみより寸すん
 源げん親ちかハハ伊い東とう入いり道みちと号子こ夜よ祐すけ
 家けが子こ夜よ祐すけ出世しゅっせの後のち厚こう免めんと家け
 王わう養やう和わ二年に二月に事こと有あつと自みづか害げ
 同どう祐すけ道みちハハ河か津つ言ごんと号祐すけ親ちかが子こ

武ぶ道どうの達たつ者もの力ちから能あた興おことああ後のちユユ後のち
 祐すけ經けいが為ために教しゆふふ源げん親ちかハハ工く
 後のち一いつ福ふく左さ門もん尉ゑいと号其その久ひさ四年に富とみ
 去いの殺ころ将しやうの附つる我われ兄あにを討うつ同どう
 季き衡けいハハ樋ひ小こ五ご帝ていと号備ひ細こが子こ文ぶん
 治ち五年に九月に頼たの朝あそへ降くだるる武ぶ勇ゆうの王わう
 東とう祐すけ茂もうハハ宇う佐さ良ら二に帝ていと号頼たの
 然しかも属ぞくしと戦いくさ切き多たし祐すけ成せいハ
 る我われ十じゅう帝ていと号河か津つ祐すけが子こ武ぶ
 勇ゆうの士し建た久ひさ四年に五月に又またの款くわんユユ藤ふじ
 祐すけ經けいと討うつ其その此こゝも河かのの石いしを
 未ま世よよりよりやむむ源げん親ちかハハ助すけ光みつハハ吾われ妻つま
 四よ帝ていと号弓きう馬まの達たつ者もの承うけえ年とし實じつ
 朝あそ野の皇みかどへ系けい信しんの附つ隨ずい兵へいより暗くら

の供奉ありしと體と好造しつらに
荒先と實收ありく當日の役と
く後日以るより又助光右の以
分と言ふすも理當しむとく出
仕と止らば同年三月青路屋上
留居と射く仕と許さる東
助通ハ河野ありと号伊豫の守
護代後宇多院弘安四年蒙古大
軍より荒野博多の津より貢米居
助光之例に任せ海上の先陣に
まゝ兵船二艘と号ありと大勇
と顯寸同次員長ハ城本島と号
資國が子治承四年秋後ちと任
ト平家の命より信が

出所天候凡る雷鳴しと前途
と冬以天よりありと河次員居
馬とく死爾資信ハ曾我大寺
と号頼朝は居しと武道乃
與あり東助清ハ安政又を命と
号津經の目代え亨二年三月叛
遂一國を安政五年と命と願地と
論とく雙方徳念へ許り然後
長崎友方より騎と取りと理
次郎等々をく月日と違ふと
退屈しと中回ありと合戦後
取清五年と命と討つとく板
頼頼赤塚ありと耐と号本
の達者正治年中山門新よと

隱岐の國へ流罪せしむ **圓山** **李基** **李**

前田と号伊藤の房玄基が二男

武切りり後醍醐帝の侍の人 **圓**

澄之 **ハ** 細川九郎と号政之が養子

永正四年八月澄之と家督と論

いゝ江がまゝ生害守 **隆平** **澄元** **ハ**

細川右京大夫と号家督と継ぐ武

名あり永正十七年六月卒去す同

資方 **ハ** 築紫上野介と号大宰少

貳の家長永正乃以主人政原と

守立兵と起す大別の勇士同

亮政 **ハ** 浅井新三郎後佐前と

号浅井のえ祖政市より四代あり

成人は随く武略智謀你一世俗

鳴ぐ右備前と了戦加多し天文

十一年正月卒去六十一同 **秋原隆泰**

ハ 治教大丞と号武勇の士弘治え

年弘教あり働く討死す **西勝**

杉本普齋 **藝** 初は八麦庵と号し

宗且門下と号と好む **嵩谷** **言** 氏

英林秋と号一英一傑の画風と好

一家とるの彩しき画尤揚れしり

秋山檢校 **ハ** 幸江原松の人十一年

く替者とあはれ共名と天

下は成人ととあひに鳴は流す

断食減治の妙と病と念すと

志をくあり好より大君のたと

多家にななつ同よく屋敷と

少子則後授僧祿の職に任ぜられ
替者一流の現姓と立え祿七年
六月死す今一ツ目毎天辰爰是あり
▲**角倉**三以ハ光好吉田子七と号天姓
工役よとこり慶長の比大堰川
と後一々丹波より舟の西ひと分
さしめ又富士川とも濤水舟外舟
船の通船と用万民の愁と解と
多し慶長十九年死其子玄之也
此事よ切あり又文學よ長一々
素庵と子**菅原道實**ハ是善
子家業と継ぐ文章の博士と爲
傳學あり一々文方殊よさく俗次
かよ登庸一々右大臣よ任ト

皇子の外戚と華ハ昌泰三年潜行
書中と道實が此の上とヤ事
あり一々乃実と用亦果一々
内年築紫へ入遷せしは延喜三
年死所よおわく薨す辛ハ又延長
八年六月清涼殿へ雷落其内は清
貫希世友人等雷大の爲に殺す
是と友丞相の靈坐とあると云
傳大系置此録キ▲**宿称**金道大友真鳥
と一々古玄よんす存人の脚と
待く遊かす一

早引人物故事卷下 大尾

右人物古事大成の早引ハ往古
より末世に至るまで英雄かすび
奇く妙くその事業武共人よ
正て事始根えとありし本記世家
列傳とりまるといふもまたさ
しくまはえよりとありさるも
麓のちりひらちを起せんは漢との
かんらん其一とありて教はる
紙のカタギとて其本と廢一節
と分りたれは遠の時代泥龍年
月記と開とめれは之月と蒙と
るの門牆かんらん何候も者との
見出し途とてく要とせよ

文政 倭節用集悉改儀大成 全

△世に節用の大冊多しとて古版の増
補して再刺の物は字開され且彫工庸書の
誤字少きものなり倭節用を京師侯序
通考の他ありて字畫音訓と顔注と穿
けりあるごとく改正せり且と加ふる智
大人程かつこの今古同と校補し
雅俗の文字りりて増す
後々の余紙改むと和漢
各不風系事毎と画き世界万国
日本國やいふと戸大坂市柳の業門
國郡や付和表禮武をさるるの異式
太刀目流槍後進物の徳めりて和漢勇
將武は續傳田武ありてつけりて
うのいのほれ半宿料理載立と云れ生
花系湯茶將茶人おののすぢ持南
三世松方位日名のよりり。美樹のより掛

半上官職の次百官名一ノ苗字四番社
 末書伏案文子形洋人の御名の中
 かしら、職後の口傳諸病妙米呪術傳
 刀刃古今總づくし、眼の國本中、
 王代武將傳、神代より、古時より、
 穀子、穀の秘伝、奇の、
 其外、世傳、要、
 一、
 遠志の、
 下、
 上、
 湯、

浪速書林

御堂助吉、
 柏原屋源三、
 河内屋茂吉、

享和二年壬戌春
 文政八年乙酉二月成刻

發行書林

江戸日本橋新右衛門丁
 前川 六左衛門
 同 日本橋砥石店
 大阪屋 茂吉
 尾州名古屋傳馬町
 美濃屋 清七
 京五条通高倉西口入
 北村 四郎兵衛
 大阪心齋橋南四丁目
 吉文字屋市左衛門
 同心齋橋通博労町南口入
 河内屋 茂兵衛

